
平成 2 9 年（ 2 0 1 7 年） 版

事 業 概 要



公益財団法人 広島原爆障害対策協議会

目 次

I 公益財団法人広島原爆障害対策協議会の概況

1 目 的	1
2 事 業	1
3 沿 革	1

II 組 織

1 広島原爆障害対策協議会の組織図	7
2 役 員・評 議 員	7
3 職 員	8

III 施 設

9

IV 平成29年度事業計画

1 被爆者の健康診断・健康管理事業（公益事業1）	10
2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業（公益事業1）	11
3 被爆者の援護福祉事業（公益事業2）	12
4 市民の健康診断・健康管理事業（公益事業1）	12
5 広島市健康づくりセンターの管理運営事業（公益事業3）	13
6 検査診療及び人間ドック健診等の事業（収益事業）	14
7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力	15

V 平成29年度予算

16

VI 平成28年度事業実績

1 健康診断事業	
(1) 被爆者健康診断	17
ア 被爆者一般・精密検査の実施	17
イ 平成28年度被爆者一般・精密検査実施状況	19
ウ 被爆者がん検診等の実施	24
エ 平成27年度被爆者がん検診等実施状況	26
オ 原爆被爆者二世健康診断の実施	34
カ 健康管理の推進	34
キ 健康診断医療機器等の整備	34
ク 被爆者健康管理資料の整備	35
ケ 黒い雨体験者相談・支援事業の補助	35
(2) 高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等	
ア 高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等の実施	36
イ 平成28年度健康診査実施状況	37

ウ 平成 27 年度がん検診等実施状況	38
エ 健康管理資料の整備	48
2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業	
(1) 調査研究の継続実施	49
(2) 文献の収集	49
(3) 第 57 回原子爆弾後障害研究会	49
3 被爆者の援護福祉事業	
(1) 被爆者相談	50
(2) 被爆者の援護措置	50
4 健康教育事業	52
5 検査診療及び人間ドック健診等の収益事業	53
6 その他目的達成に必要な事業	53
7 平成 28 年研究業績	54

VII 資 料

1 年度別被爆者数（広島市及び広島県）	58
2 年賀寄附金配分金による実施事業	59
3 日本自転車振興会補助金による実施事業	60
4 車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業	60
5 広島県補助金による実施事業	61
6 広島市補助金による実施事業	62
7 日本高等学校教職員組合等からの寄付金	63
8 全国から寄せられた寄付金	64
9 核兵器禁止平和建設国民会議からの寄贈物品	68
10 日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品	68
11 職員	69

I 公益財団法人広島原爆障害対策協議会の概況

1 目 的

この法人は、原爆障害の研究及び原爆被爆者の健康管理の対策並びに原爆被爆者の援護の対策について審議し、その推進を図るとともに、原爆被爆者をはじめとする住民の健康の維持増進に寄与することを目的とする。

2 事 業

この法人は前項の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 原爆被爆者の健康管理及び健康指導を行う事業
- (2) 原爆被爆者の障害及び健康管理に関する研究
- (3) 原爆被爆者の生活・健康・医療に関する相談及び原爆被爆者に対する援護を行う事業
- (4) 広島市健康づくりセンターの運営管理
- (5) 原爆被爆者の健康診断及び住民の健診事業の受託
- (6) その他目的達成に必要な事業

3 沿 革

昭和 20 年 8 月 6 日原子爆弾攻撃によって潰滅的な被害を蒙った広島市の被爆生存者達は、永い占領期間中悲惨な状態のまま放置されていたが、昭和 26 年の講和条約の締結、占領政治の終結を契機として「被爆者を救え」という声がおこった。

なかでも日頃ケロイド患者に接する広島市医師会・外科会に属する医師たちは、広島市医師会を動かして県・市当局に働きかけた。その結果、昭和 28 年 1 月、原爆障害者の医療を組織的に推進するために、広島県・広島市をはじめ、県・市医師会、大学医学部、官公立病院等が一体となって、「広島市原爆障害者治療対策協議会」（略称「原対協」）を結成して活動を開始、昭和 31 年 4 月には「財団法人広島原爆障害対策協議会」に改組し、被爆者の健康診断、健康管理に関する調査研究、援護に取り組んできた。

平成元年 9 月、「広島市総合健康センター」への移転後は、一般市民を対象とする健康診査や健康増進事業、健康教育事業を加え、被爆者をはじめ全ての市民の健康の維持・増進、被爆者の福祉向上のために各種事業を実施している。平成 24 年 4 月には、広島県知事から公益財団法人として認定を受け、「公益財団法人広島原爆障害対策協議会」に移行した。

昭和 28 年 1 月 「広島市原爆障害者治療対策協議会」（略称「原対協」）の設立
事務局を広島市社会課内に設置

昭和 29 年 1 月 被爆者の合同診察を開始

2 月 原爆障害者の実態調査を実施

10 月 事務局を広島市民病院内に移設

昭和 30 年 5 月 原爆乙女 25 名の渡米治療に協力

昭和 31 年 4 月 「財団法人広島原爆障害対策協議会」（略称「広島原対協」）に改組、認可

9 月 原爆病院の完成とともに事務局を同病院内に移設

昭和 32 年 9 月 第 9 回保健文化賞、厚生大臣の表彰を受賞

昭和 33 年 2 月 原対協援護事業として原爆被爆者のうち生活困窮者を救済するため、生活援護金の給付を開始

11 月 お年玉付郵便葉書寄付金の配分団体に指定

昭和 34 年 6 月	第 1 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 36 年 4 月	「広島原爆被爆者福祉センター」建設工事落成
5 月	「広島原爆被爆者福祉センター」落成とともに事務局を同センター内に移設
6 月	第 3 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	被爆者健康診断、職業補導、生活相談等の業務を開始
8 月	『広島原爆医療史』を発刊
昭和 38 年 10 月	「広島原爆被爆者健康管理所」を開設
11 月	第 5 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 39 年 3 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の暖房設備工事完成
9 月	オデルカ・カメラを搭載した健康診断車「平和号」で被爆者の胃集団検診を開始
昭和 40 年 10 月	第 7 回「原子爆弾後障害研究会」を開催し研究講演集『20 年のまとめ』を発刊
昭和 42 年 5 月	精密健康診断車(ひかり号)を購入
6 月	日本自転車振興会・島根県・広島市・江津市の補助金を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を建設、被爆者の入湯療養を開始
昭和 43 年 7 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の新館増築工事並びに旧館改造工事落成
10 月	第 9 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
11 月	自動分析機(オートアナライザー)を設置
昭和 44 年 2 月	日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」暖房設備工事等完成
3 月	テレビジョン X 線カメラを設置
8 月	勤労被爆者のため、広島原爆被爆者福祉センターで日曜健診を開始 続広島原爆医療史『被爆者とともに』を発刊
昭和 45 年 4 月	子宮がん検診を開始
5 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の増築工事落成
6 月	第 11 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 46 年 3 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の増改築、空調設備改良工事完成
6 月	第 12 回「原子爆弾後障害研究会」を開催 「広島原爆被爆者福祉センター」開設 10 周年記念展示会を開催
昭和 47 年 5 月	全自動化学分析装置(ハイゼルマーク X)、自動血球計算装置(コールターカウンター)を設置
昭和 48 年 4 月	広島市の周辺町村合併にともなう被爆者健診対象者の大幅増加(約 17,000 人)により、出張健診班を 2 班編成
6 月	第 14 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	被爆二世の不安を除去するため、被爆者の子に対する健康診断を開始(広島市委託事業)
昭和 49 年 5 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を購入
7 月	広島県・広島市からの助成により「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷房設備工事完成
12 月	肺機能検査機(パンスパイロコンピューター)を設置
昭和 50 年 4 月	勤労被爆者のため月 1 回夜間健診を開始
6 月	第 16 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 51 年 6 月	胃集検用テレビレントゲン設置及び自動血球計算装置を増設
昭和 52 年 6 月	第 18 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

昭和 53 年 7 月	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室増改築等工事完成 X 線テレビジョン設置及び胸部一般撮影用 X 線装置を更新整備
8 月	勤労被爆者のため月 1 回日曜出張健診を開始
昭和 54 年 4 月	被爆者の胃検診(昭和 62 年に名称を「胃がん検診」に変更)を開始(広島市委託事業)
6 月	第 20 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 55 年 2 月	国の施策による被爆者二世健康診断を開始
8 月	自動血球分類装置(Diff-3)を設置
昭和 56 年 5 月	第 22 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	「広島原爆被爆者福祉センター」開設 20 周年記念パネル展示会を開催
10 月	広島県・広島市の補助を受け「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋根防水改修その他工事完成
昭和 57 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を購入
昭和 58 年 6 月	第 24 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 59 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
昭和 60 年 6 月	第 26 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の車庫上屋根新設工事等完成
昭和 61 年 7 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR501(立位専用システム)設置及び胃透視用 X 線テレビ装置更新整備
昭和 62 年 3 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR502(臥位専用システム)設置及び一般撮影用 X 線装置更新整備
4 月	被爆者の肺がん検診を開始(広島市委託事業)
6 月	第 28 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の食堂拡張工事等施設整備工事完成
昭和 63 年 8 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR201、CR 専用 X 線透視撮影台及び CR 用光ディスク画像ファイル装置を設置
8 月	国の施策による被爆者のがん検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、多発性骨髄腫)を開始
平成元年 3 月	自動血球計算装置(コールターカウンター)を更新整備及びフィルムデジタイザー、光ディスク画像ファイル装置を設置
6 月	第 30 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
9 月	新規事業の受託に対応するため、寄附行為の一部を改正 「広島市総合健康センター」への移転に当たり、「広島原爆被爆者福祉センター」の施設を広島市に寄贈 「広島市総合健康センター」の開館に伴い、診療所名を「広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター」に改称 老人保健法健康診査及び結核定期健康診断を開始 CR 専用 X 線透視撮影台及び心電図自動解析データファイリングシステムを設置
平成 2 年 4 月	老人保健法基本健康診査(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)・結核定期健康診断の出張健診及び老人保健法・被爆者の出張がん検診(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)を開始

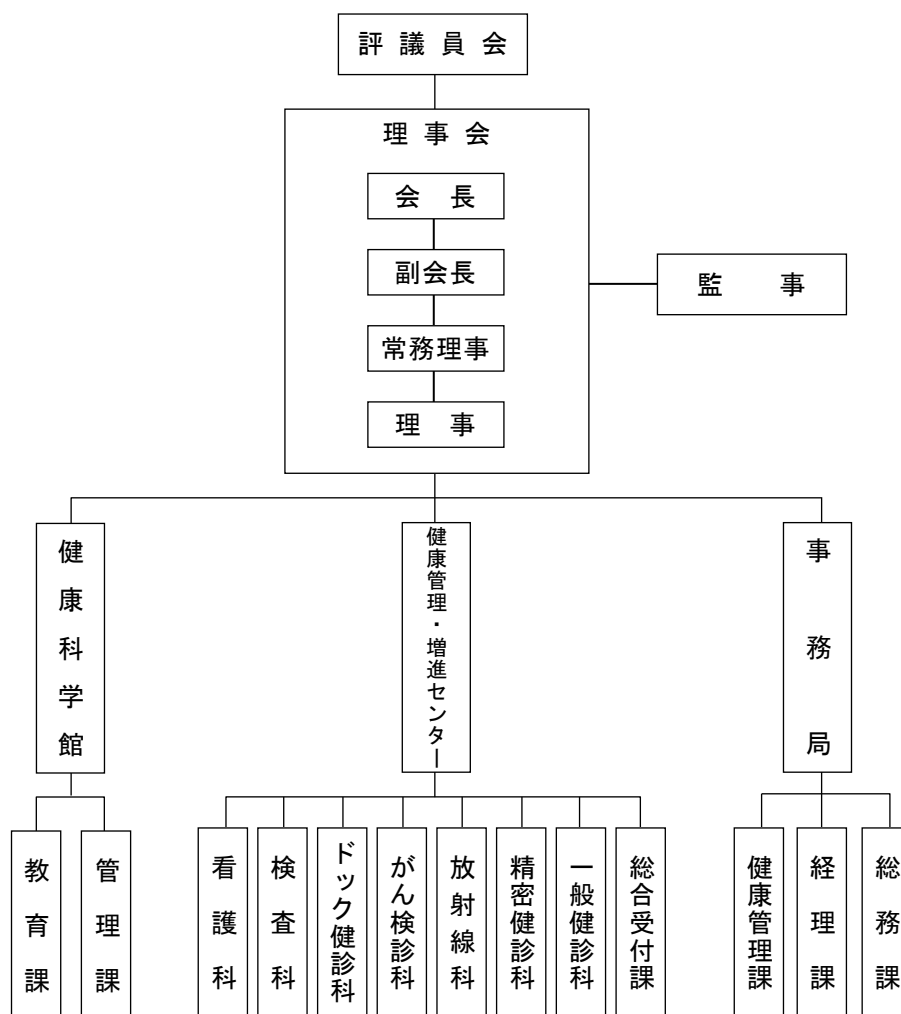
	8 月	磁気共鳴画像診断装置(MRI)を設置
平成 3 年	3 月	夜間健診を中止
	4 月	被爆者の大腸がん検診を開始(広島県・市委託事業)
	6 月	第 32 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	8 月	X 線骨密度測定装置及び超音波診断装置を設置
平成 4 年	4 月	被爆者・老人保健法の安芸区の出張がん検診を開始
	5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR7501 を更新整備
	8 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の内部・外部改修工事等施設整備工事完成
	10 月	国の施策による被爆者の大腸がん検診を開始
	11 月	老人保健法による大腸がん検診を開始
平成 5 年	4 月	被爆者・老人保健法の安佐南区・安佐北区の出張がん検診を開始
	6 月	第 34 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	8 月	胃集検用 X 線撮影装置(デジタルラジオグラフィ)を更新整備
平成 6 年	4 月	事務局組織改正。2 課 1 室を 3 課 2 室制に改める。
	5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 を更新整備
	9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
平成 7 年	4 月	被爆者の骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
	5 月	原爆被爆 50 周年記念特別講演会を開催
		第 36 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	6 月	内視鏡デジタルファイリングシステムを更新整備
	8 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
	10 月	市民を対象とする骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
平成 8 年	4 月	老人保健法による肺がん出張検診を開始
	7 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
	8 月	既設 MRI 装置をバージョンアップ
平成 9 年	4 月	市民を対象とするマンモグラフィによる乳がん検診を開始(広島市委託事業)
	6 月	第 38 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	7 月	X 線骨密度測定装置を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室・浴槽等改修工事完成
平成 10 年	8 月	糖尿病予防対策事業を開始
		「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋上陸屋根防水工事完成
		コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 及び心電図データマネジメントシステムを更新整備
	10 月	C 型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)を開始(広島市委託事業)
平成 11 年	6 月	第 40 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
	9 月	DR システム X 線テレビ装置を整備
平成 12 年	9 月	超音波診断装置を更新整備
平成 13 年	1 月	MRI 装置を更新整備
	6 月	第 42 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
平成 14 年	3 月	デジタル超音波診断装置を更新整備
	7 月	自動血球計算装置を更新整備
	8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷暖房設備改修工事完成

平成 15 年 4 月	市民の C 型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)に B 型肝炎ウイルス検査を追加(広島市委託事業)
6 月	第 44 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	内視鏡検査システムを更新整備
平成 16 年 1 月	乳房 X 線撮影装置を更新整備
	CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを更新整備
4 月	第二次 CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを整備
8 月	全自動血球計算装置搭載健診車を更新整備
平成 17 年 6 月	第 46 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	総合健診電算システムを更新整備
12 月	乳房 X 線撮影装置を整備
12 月	医用画像情報システムサーバーソフトウェアを拡張整備
平成 18 年 3 月	職業補導事業を廃止
4 月	マンモグラフィによる被爆者乳がん検診を開始
	老人保健法基本健康診査に生活機能評価を追加して実施
9 月	デジタル X 線透視撮影装置更新整備
10 月	被爆者健診に対する基本健康診査(生活機能評価)の実施
12 月	全自動血球計算装置搭載健診車更新整備(1 号車)
平成 19 年 1 月	X 線骨密度測定装置更新整備
6 月	第 48 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	X 線 CT 撮影装置整備
	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」外壁・厨房等の施設改善工事完成
平成 20 年 5 月	特定健康診査・特定保健指導を開始(広島市委託事業)
8 月	超音波診断装置更新整備
11 月	MRI 装置のアップグレード整備
平成 21 年 2 月	医用画像情報システム更新整備
3 月	デジタル胃集検 X 線透視撮影装置更新整備
4 月	日曜健診(第 1・第 3 日曜日)を午前のみの実施とし、第 3 日曜日に胃がん・肺がん検診を開始
6 月	第 50 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
10 月	女性特有のがん検診(無料クーポン券)の開始(広島市委託事業)
平成 22 年 1 月	医用画像情報システムビューワー更新整備
4 月	社会保険加入者の被扶養者の出張特定健康診査を開始
9 月	超音波画像診断装置更新整備
	全自動電気泳動装置更新整備
平成 23 年 3 月	FPD デジタル X 線透視撮影装置更新整備
4 月	日曜健診(第 3 日曜日)で乳がん・子宮がん検診を開始
6 月	第 52 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
9 月	広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念式典を開催
11 月	働く世代への大腸がん検診(無料クーポン券)の開始(広島市委託事業)
12 月	広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念パネル展を開催

平成 24 年 3 月	広島市健康づくりセンター 1 階（乳がん・子宮がん検診エリア等）改修工事完成
3 月	超音波画像診断装置更新整備
4 月	広島県知事の認定を受け、「公益財団法人広島原爆障害対策協議会」に移行
4 月	土曜健診を第 2・第 4・第 5 土曜日のみの実施に変更し、全ての土日健診（第 2・第 4・第 5 土曜日及び第 1・第 3 日曜日）で胃がん・肺がん検診を開始
平成 25 年 3 月	電子内視鏡ビデオ情報システム更新整備
	CR 画像制御装置更新整備
4 月	被爆者一般健診会場において肺がん検診の同時実施を開始 人間ドック等健診業務を開始（広島市医師会臨床検査センターから移管）
6 月	第 54 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
10 月	電子内視鏡システム更新整備
12 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を廃止
平成 26 年 2 月	医用画像情報システム更新整備
5 月	広島市健康づくりセンター 1 階（総合受付・一般健診エリア）改修工事
9 月	生理検査波形システム更新整備
12 月	内視鏡情報管理システム更新整備
平成 27 年 2 月	新総合健診システム稼働
3 月	健康増進事業終了
5 月	上部消化管汎用ビデオスコープ増設
6 月	第 56 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	乳房用 X 線撮影装置更新整備
平成 28 年 8 月	自動血球計算装置更新整備
9 月	健診業務 LAN と情報処理系 LAN を分離したシステム構築

Ⅱ 組 織

1 組 織 図



2 役 員・評 議 員

公益財団法人広島原爆障害対策協議会 役員名簿

(平成 29 年 7 月 1 日現在)

役 職	氏 名	職 名
会 長	平 松 恵 一	広島県医師会長
副 会 長	松 村 誠	広島市医師会長
副 会 長	長 崎 孝 太 郎	医療法人厚生堂長崎病院理事長（前広島市医師会長）
常務理事	沢 近 紀 夫	沢近医院長（広島市内科医会会長）
常務理事	横 山 行 男	医療法人横山内科医院長（前広島県内科会会長）
常務理事	永 谷 尚 之	広島原爆障害対策協議会事務局長
理 事	大 杉 薫	広島市健康福祉局原爆被害対策部長
理 事	墓 丸 尚 子	広島市健康福祉局保健部長
理 事	八 幡 毅	広島県健康福祉局被爆者支援課長
理 事	服 部 登	広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門分子内科学教授
監 事	川 上 正 仁	医療法人社団祐仁会川上医院長
監 事	久 保 田 一 生	一般社団法人広島市都市整備公社監事

氏 名	職 名
荒 木 康 之	広島市民病院長
泉 水 直	日本赤十字社広島県支部事務局長
大 久 保 雅 通	内科糖尿病久安医院（広島市内科医会）
鎌 田 七 男	本郷中央病院（前広島原爆被爆者援護事業団理事長）
川 添 泰 宏	広島市健康福祉局長
川 原 正 照	広島市歯科医師会長
菊 間 秀 樹	広島県健康福祉局長
木 矢 克 造	県立広島病院長
佐 々 木 博	広島市医師会副会長
豊 見 雅 文	広島県薬剤師会長
永 田 雅 紀	広島市議会議長
平 川 勝 洋	広島大学病院長
古 川 善 也	広島赤十字・原爆病院長
松 浦 伸 也	広島大学原爆放射線医科学研究所長

(50 音順)

3 職 員

(平成29年7月1日現在、単位：人)

事務局		健康管理・増進センター		健康科学館	
職種	人員	職種	人員	職種	人員
事 務 局 長	1	医 師	所 長	館 長	1
事 務 職 員	16		副 所 長	事 務 職 員	4
相 談 員	1		常 勤 医 師	栄 養 士 嘱 託	1
自動車運転手	4		非常勤医師	事 務 嘱 託	6
用 務 員	1		読 影 委 員		
			看 護 師		
			検 査 技 師		
			放 射 線 技 師		
			栄 養 士		
			薬 剤 師		
			事 務 職 員		
			看 護 師 嘱 託		
			事 務 嘱 託		
小 計	23	小 計	165	小 計	12
合 計					200

Ⅲ 施 設

広島市総合健康センターは、原爆被爆者を含めたすべての市民の健康をまもる拠点施設として、広島市と広島市医師会と本会の三者協力のもとに建設されたものであり、本会は、平成元年9月、この広島市総合健康センターの開館に伴い、国泰寺町の原爆被爆者福祉センターから移転した。

この敷地及び建物は広島市と広島市医師会がそれぞれ区分所有する合築施設であり、広島市が設置する施設は、「広島市健康づくりセンター」と称せられている。

本会は広島市が設置した「広島市健康づくりセンター」の管理運営を広島市から指定管理者の指定を受け、その業務を行っている。

- 1 所在地 広島市中区千田町三丁目8番6号
- 2 敷 地 9,622.67 m²（広島市 5,122.67 m²、広島市医師会 4,500.00 m²）
- 3 建 物 鉄筋コンクリート造 地下1階、地上6階建 延べ 15,916.26 m²

利用区分	面積
健康管理・増進センター専用	3,440.79 m ²
事務局専用	1,000.42
健康科学館専用	2,442.13
広島市・原対協事業共用部分	2,741.20
広島市医師会専用	3,199.19
広島市・広島市医師会共用部分	3,092.53
合 計	15,916.26

- 4 事業費 約 90 億円（広島市約 65 億円、広島市医師会約 25 億円）

Ⅳ 平成29年度事業計画

本協議会は、長年にわたり被爆者や市民の健康管理及び健康の維持増進に取り組んできており、例えば、被爆者健診では、広島市全体の実施件数の65%以上（平成27年度67%）を本協議会が担うなど大きな役割を果たしている。

しかし、被爆者の減少、高齢化、市民の健診のニーズの多様化、他の医療機関の健診の充実などにより、経営環境は一段と厳しくなっている。

平成29年度は、こうした厳しい経営環境の中ではあるが、本協議会の設立の趣旨を引き続き果たすべく「公益財団法人」としての理念に基づき、1)「被爆者の健康診断・健康管理事業」、「被爆者の健康管理に関する調査研究事業」、「被爆者の援護福祉事業」、2)「市民の健康診断・健康管理事業」、3)地域の医療機関との連携の下に行う「検査診療事業」、4)財務基盤の補強に資する「人間ドック健診事業」等を進める。

この他、5)本協議会が入居している広島市健康づくりセンターについて、広島市から指定管理者の指定を受けて「施設管理」及び「健康教育事業・子育て支援事業」を行う。

さらに6)健診・検査業務の向上とサービスの充実を一層進めるため、研修の充実等、職員の資質の向上に取り組む。

なお、①経費削減の一環として、人件費について、⑦現在、一時金のカット、国家公務員に準じた月例給の引き上げの見送り、定期昇給の抑制等の措置を行っているが、④平成29年度から新たに退職手当の引下げ（定年退職△15%、自己都合退職△30%等）を5年間の経過措置で実施する。⑦また、医師等を除き、常勤職員は不補充とし、残った職員の配置見直しで業務を行う。②その上で、他の模範となるような勤務成績をあげた職員には顕彰等を行う。

1 被爆者の健康診断・健康管理事業（公益事業1）

（1）健康診断の実施

被爆者の高齢化が進むなか、関係当局と連携して、

- ① 公民館等での出張健診では、より身近な会場の確保や健診日程の設定に努める。（平成29年度は白島、中山台、阿戸等12か所を追加。）また、交通不便等で受診者から希望があれば会場までの送迎を実施する。
- ② 広島市健康づくりセンターでは、第2・第4・第5の土曜日及び第1・第3の日曜日にも各種健診を行う。（なお、胃がん検診はバリウム検査のみ実施。また婦人科（乳がん、子宮がん）検診は第3の日曜日のみ実施。）
- ③ 広島市健康づくりセンターは平成元年に設置され、築後30年近く経っており、平成29年度は、市、市医師会と協議して空調機等の制御装置を更新する。また、本協議会独自で待合室のイス等を計画的に更新する。
- ④ 市民と市政等を利用して受診勧奨や出張健診の日程のPR等を行う。
- ⑤ 被爆二世健康診断を、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場で行う。

なお、今年度から、受診日の予約は市を経由することなく、直接、本協議会に申込む方法に変更する。

<実施目標>	一般検査	14,800 件	精密検査	14,800 件
	胃がん検診（X線）	880 件	胃がん検診（内視鏡）	720 件
	肺がん検診	8,610 件	乳がん検診	1,700 件
	子宮がん検診	1,300 件	大腸がん検診	6,900 件
	多発性骨髄腫検診	10,600 件	骨粗鬆症検診	3,800 件
	被爆二世健康診断	2,600 件		

(2) 健康管理の推進

被爆者の高齢化を考慮し、次の事項に重点に取り組む。

① 悪性新生物の早期発見

広島大学大学院医歯薬保健学研究院、同原爆放射線医科学研究所、(公財)放射線影響研究所等の協力を得て、胃がん・肺がん・肝臓がん・甲状腺がん・乳がん・子宮がん・白血病・多発性骨髄腫・大腸がん等の悪性新生物の早期発見に努める。

② 生活習慣病の早期発見と指導

増加傾向にある糖尿病・動脈硬化症・高血圧・骨粗鬆症・認知症等の早期発見に努めるとともに、必要に応じて適切な保健指導及び栄養指導を行う。

(3) 健康診断医療機器等の整備

胃がん検診は、昨年7月から内視鏡による検査を開始したことから、今後の検査件数増加に対応するため内視鏡スコープ（経口用1本・経鼻用1本）を増設する。

（増設後：経口用5本、経鼻用2本）

(4) 被爆者健康管理資料の整備

受診者の健診資料（健康診断個人票・心電図所見・がん症例報告等）を集計して統計資料を作成するとともに、調査研究資料として活用できるよう整理、保存する。

(5) 黒い雨体験者相談・支援事業の補助

広島県、広島市が国から受託して実施する黒い雨体験者に対する医師、臨床心理士、保健師による相談・支援事業において、本協議会は相談会に派遣する医師等の調整や相談記録のデータベース化等を行う。

2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業（公益事業1）

(1) 調査研究の継続実施

下記の調査研究に引き続き取り組む。研究成果は原子爆弾後障害研究会、関係各学会等のほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙等に発表する。

① 被爆者がん検診の意義に関する研究

本協議会での被爆者がん検診の長年の成果を踏まえ、がん検診の意義・より効率的な検診のあり方・精度管理について、広島大学原爆放射線医科学研究所の疫学部門との協力、広島県腫瘍登録データの活用等により調査・研究を行う。

② 被爆者の糖代謝に関する研究

被爆者における糖代謝について検討し、糖尿病発症の予防の方策を検討する。

③ 肺がん、胃がん、大腸がんに関する研究

被爆者について肺がん、胃がん、大腸がんの発生状況を調査研究し、その予防に資する。

④ 加齢に関する研究

虚血性心疾患、脳血管障害、骨粗鬆症等の加齢関連疾患や病態について検討するとともに、各種の関連要因（血圧・コレステロール・喫煙・栄養状況等）や被曝状況との関連を検討する。

⑤ 睡眠の量及び質と各種疾患についての横断並びに縦断調査

睡眠の量や質と、高血圧、糖尿病、不整脈等の心疾患や脳血管障害などとの関連及びその予後への影響について検討する。

⑥ 被爆者の介護予防のための調査

高齢化した被爆者の介護予防のために、ロコモ度テスト、握力、歩行速度、認知症スクリーニングを行い、ロコモが疑われる人には、運動指導等を行い、被爆者の介護進行への予防の指導及び危険因子を解明する。

(2) 文献の収集

原子爆弾後障害に関する医学論文、原爆関係図書等の資料を収集、整理保管し、その活用を図る。

(3) 原子爆弾後障害研究会の開催

平成 29 年 6 月 4 日(日)、広島市において「第 58 回原子爆弾後障害研究会」を(公財)放射線影響研究所、広島大学放射線医科学研究所と共同で開催する。

3 被爆者の援護福祉事業（公益事業 2）

(1) 被爆者相談の実施

被爆者の生活、健康及び医療についての相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、必要な指導及び援助を行う。

(2) 援護措置の実施

国・広島県・広島市の行政施策を補完し、「原爆被爆者援護規程」に基づいて必要な援護を行い、被爆者の福祉増進に努める。

- ・ 生活困窮者に対する援護金支給
- ・ 被爆身体障害者等に対する見舞金支給
- ・ 福祉用具貸与・購入費利用補助
- ・ その他必要と認める経費の一部補助

4 市民の健康診断・健康管理事業（公益事業 1）

(1) 高齢者医療確保法に基づく健康診査等の実施

広島市から受託して、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場において行う。

- ① 出張健診については、被爆者健診同様、より身近な会場の確保及び健診日程の設定に努める。
- ② 広島市健康づくりセンターでは、第 2・第 4・第 5 の土曜日及び第 1・第 3 の日曜日にも健診を行う。
- ③ 健診結果から生活習慣病のリスクが高く、特定保健指導を受ける必要があると判定された者については、結果説明に引き続き特定保健指導の受診を勧奨する。

＜実施目標＞

特定健康診査	14,990 件	（内、広島市国保 13,490 件）
特定保健指導	570 件	

(2) 健康増進法に基づくがん検診等の実施

広島市から受託して、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場において行う。

- ① 出張健診において、5 つのがん検診と特定健診等の同時開催を、中区を除く各区の保健センター等（50 か所程度）で行う。
- ② 休日の出張健診を 17 か所で実施する。

- ③ 広島市健康づくりセンターでは、被爆者健診同様、第2・第4・第5の土曜日と、第1・第3の日曜日にも、各種がん検診を行う。（なお、胃がん検診はバリウム検査のみ実施。また婦人科（乳がん、子宮がん）検診は第3の日曜日のみ実施。）
- ④ 平成29年度は4月から胃カメラによる胃がん検診を被爆者健診（平成28年7月開始）に引き続いて始める。また、胃カメラによる検診で必須の二重読影の依頼先を独自で確保できない医療機関から依頼があれば二重読影を行う。

<がん検診：実施目標>

胃がん検診（X線）	12,700 件	胃がん検診（内視鏡）	2,100 件
肺がん検診	24,430 件	大腸がん検診	20,200 件
乳がん検診	9,600 件※	子宮頸がん検診	7,800 件※

（※広島市の無料クーポン利用分を含む）

<その他検診：実施目標>

骨粗鬆症検診	2,000 件	肝炎ウイルス検査	5,290 件
--------	---------	----------	---------

（3）感染症法に基づく結核健康診断の実施

広島市から受託して、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場において行う。

<実施目標>

結核健康診断 15,200 件

（4）後期高齢者に対する健康診査の実施

広島市から受託して、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場において行う。

<実施目標> 4,400 件

（5）健康管理資料の整備

受診者の健康状況を時系列で詳細に把握できるよう受診者の健診資料（健康診断個人票・心电图所見・がん症例報告等）を整理・保管する。

5 広島市健康づくりセンターの管理運営事業（公益事業3）

広島市から指定管理者の指定を受け、広島市健康づくりセンターの維持管理及び健康教育事業並びに子育て支援事業を行う。

（1）健康教育事業

健康に関する最新情報を分かりやすく正確に提供するとともに、教育研修等を積極的に行い、日常における健康管理について正しい知識の普及を図る。

<目標> 健康科学館年間利用者数 49,900 人

① 健康科学展示施設の運営

- ・ 企画展開催 年 4 回
- ・ パネル展 年 12 回

② 健康ライブラリーの運営

- ・ 図書及びビデオを利用した学習の場の提供
- ・ インターネットによる健康情報の提供

③ 健康に関する教育研修の実施

- ・ 主催による研修会・イベント 年 46 回

④ ボランティア（ヘルスサポーター）の養成・育成

- ・ ボランティア養成講座（6課程） 年1回
- ・ ボランティア育成講座 年2回
- ・ ボランティアの活動 年430回

（2）子育て支援事業

① ファミリー・サポート・センター事業

会員同士の子育てに関する相互援助活動により、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図る。

＜目標＞ 年間延利用件数 9,600件

② つどいの広場事業

子育て家庭の保護者と子どもが気軽につどい、あそびと育児相談などを行う常設の場を提供し、子育ての負担感の軽減や地域の子育て支援の充実を図る。

＜目標＞ 年間利用者数 20,600件

③ パパとママの育児教室の開催

夫婦が協力して子育てを行うため、育児における夫婦の役割や育児全般について講義・実習を行い、家庭における育児能力の向上を図る。

- ・ 開催回数 年34回

6 検査診療及び人間ドック健診等の事業（収益事業）

（1）検査診療事業

本協議会の健診等において、悪性疾患等が疑われた者に、確定診断等のための詳細な検査（CT・MRI・内視鏡・超音波検査等）を行う。

なお、治療が必要な場合には、外部医療機関等との連携により最善の方策を進める。

また、広島市医師会員からの依頼に基づき生体検査（CT・MRI・超音波検査等）を行う。

（2）人間ドック健診等の事業

① 人間ドック健診、生活習慣病予防健診、事業所健診等及びその結果に基づく運動、栄養指導を行う。

また、メンタル面での健診メニューとしてストレスチェックを行う。

＜実施目標＞

人間ドック健診	2,060件
生活習慣病予防健診（協会けんぽ）	3,143件
事業所健診	3,195件
ストレスチェック	800件
栄養サポート・運動サポート	319件

② 管理栄養士・健康運動指導士が、健診結果等に基づき、受診者一人ひとりに適した運動・栄養について指導・助言を行う。

＜実施目標＞

健康サポート	72件
--------	-----

（3）厚生労働省の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者にやさしい地域づくりにむけて～に掲げられた認知症発症予防の取り組みに資するものとして、新たに、市民を対象にした健康チェック事業を行う。

＜実施目標＞

あたまの健康チェック（早期認知機能低下の早期発見）	300 件
ロコモチェック（運動機能低下の早期発見）	300 件

7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

（１）放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、被曝者医療を学ぶために来日した外国の研修生の受け入れなど、事業の推進に協力する。

（２）来日被曝者の健康診断、医療相談等の実施

来日した国外に居住する被曝者の健康診断及び医療相談、被曝者手帳の取得に必要な手続きの相談など、在外被曝者への支援を行う。

V 平成29年度予算

収 支 予 算 書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業会計					収益事業等会計	法人会計	合 計
	公益1 健康診断・ 調査研究事業	公益2 援護福祉事業	公益3 健康教育・ 子育て支援事業	共 通	小 計	人間ドック 健診等事業		
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	1	0	0	0	1	0	0	1
特定資産運用益	496	1	0	0	497	123	785	1,405
事業収益	973,752	0	96,276	0	1,070,028	435,351	0	1,505,379
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	800	0	0	800	0	0	800
雑収益	0	0	0	0	0	600	0	600
経常収益計	974,249	801	96,276	0	1,071,326	436,074	785	1,508,185
(2) 経常費用								
事業費	1,024,151	9,853	106,021	0	1,140,025	403,252		1,543,277
管理費							17,564	17,564
経常費用計	1,024,151	9,853	106,021	0	1,140,025	403,252	17,564	1,560,841
当期経常増減額	△ 49,902	△ 9,052	△ 9,745	0	△ 68,699	32,822	△ 16,779	△ 52,656
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
固定資産除却損	32	0	0	0	32	8	0	40
経常外費用計	32	0	0	0	32	8	0	40
当期経常外増減額	△ 32	0	0	0	△ 32	△ 8	0	△ 40
他会計振替額	1,013	9,052	9,745	0	19,810	△ 32,814	13,004	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 48,921	0	0	0	△ 48,921	0	△ 3,775	△ 52,696
法人税、住民税及び事業税					0	3,902	71	3,973
当期一般正味財産増減額	△ 48,921	0	0	0	△ 48,921	△ 3,902	△ 3,846	△ 56,669
一般正味財産期首残高	756,726	0	0	837	757,563	270,540	△ 49,359	978,744
一般正味財産期末残高	707,805	0	0	837	708,642	266,638	△ 53,205	922,075
II 指定正味財産増減の部								
受取寄付金	0	1,000	0	0	1,000	0	0	1,000
一般正味財産への振替額	0	△ 800	0	0	△ 800	0	0	△ 800
当期指定正味財産増減額	0	200	0	0	200	0	0	200
指定正味財産期首残高	0	1,000	0	200	1,200	0	0	1,200
指定正味財産期末残高	0	1,200	0	200	1,400	0	0	1,400
III 正味財産期末残高	707,805	1,200	0	1,037	710,042	266,638	△ 53,205	923,475

Ⅵ 平成28年度事業実績

1 健康診断事業

(1) 被爆者健康診断

原爆被爆者の健康管理のため、広島県・広島市及び島根県、大阪府、東京都、山口県の委託を受けて、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく原爆被爆者の健康診断を行っている。検査項目は下表のとおりである。

健診種別及び検査項目（平成28年度）

種 別		検 査 項 目
一般検査		血圧測定・尿検査・血液一般検査・CRP
精密検査		血液生化学検査・心電図検査・骨髄像ほか必要な検査
がん検診	胃がん検診	胃部X線撮影 又は 胃内視鏡検査
	肺がん検診	胸部X線撮影、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	視診、触診、マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	視診、内診、細胞診（頸部）
	多発性骨髄腫検診	血液検査（血清蛋白分画検査）
	大腸がん検診	便潜血二日法
骨粗鬆症検診		骨塩定量検査（DEXA法）

一般検査は、毎年、前期・後期の2回行う定期健康診断のほかに、年2回を限度として申請による健康診断が受診できる。一般検査の結果、必要があると認められた場合に、精密検査を実施する。また、申請による健康診断のうち1回をがん検診として受診できる。

ア 被爆者一般・精密検査の実施

被爆者一般検査・精密検査は、広島市総合健康センター及び市内の各集会所、公民館等を会場とする出張健診会場（2か所）の3会場で実施しており、そのために健康診断班を3班（1班約14名一医師を含む）編成している。

また、広島市総合健康センターで毎月第1・第3日曜日の日曜健診を実施しているほか、年間9回日曜出張健診も実施している。被爆者一般・精密検査の年度別実施状況は表1のとおりである。

表 1 一般・精密検査の年度別実施状況（人，％）

年度	一般検査		精密検査 実施件数(B)	精検受診率 (B)/(A)(%)	一般及び精密検査 延べ実施件数
	実施件数(A)	要精検者数			
昭和 36	20,949	—	3,818	18.2	24,767
37	57,090	—	10,730	18.8	67,820
* 38	60,005	—	10,818	18.0	70,823
39	70,672	—	14,691	20.8	85,363
40	70,634	—	14,135	20.0	84,769
* 41	75,751	—	13,648	18.0	89,399
42	78,372	23,087	15,453	19.7	93,825
43	84,459	26,056	14,595	17.3	99,054
* 44	94,427	27,894	15,352	16.3	109,779
45	89,890	36,988	26,761	29.8	116,651
46	93,001	40,868	31,771	34.2	124,772
* 47	111,119	51,433	42,300	38.1	153,419
48	101,612	48,393	38,024	37.4	139,636
49	112,068	50,713	42,871	38.3	154,939
* 50	113,852	52,996	45,437	39.9	159,289
51	109,040	51,559	44,652	41.0	153,692
52	107,000	53,453	49,959	46.7	156,959
* 53	109,531	54,948	50,785	46.4	160,316
54	104,928	61,201	58,273	55.5	163,201
55	100,788	56,415	53,404	53.0	154,192
* 56	100,289	57,168	54,360	54.2	154,649
57	94,857	57,692	55,137	58.1	149,994
58	91,003	60,524	58,999	64.8	150,002
* 59	90,495	65,715	64,863	71.7	155,358
60	91,336	68,221	67,177	73.5	158,513
61	87,533	67,361	66,511	76.0	154,044
* 62	87,372	67,439	66,659	76.3	154,031
63	82,107	63,024	62,883	76.6	144,990
平成元	76,987	59,818	60,461	78.5	137,448
* 2	73,429	58,652	59,539	81.1	132,968
3	68,285	55,675	57,705	84.5	125,990
4	63,771	53,925	55,561	87.1	119,332
* 5	60,666	56,596	58,567	96.5	119,233
6	55,979	54,270	56,860※	101.6※	112,839
7	54,275	53,702	56,145※	104.5※	110,420
* 8	52,175	52,541	54,967※	104.6※	107,142
9	49,876	49,797	51,917※	104.1※	101,793
10	47,229	47,210	49,467※	104.7※	96,696
* 11	45,168	45,156	47,154※	104.4※	92,322
12	43,121	43,114	45,019※	104.4※	88,140
13	40,614	40,607	42,191※	103.9※	82,805
14	39,269	39,268	41,440※	105.6※	80,709
15	38,432	38,432	40,607※	105.7※	79,039
16	35,588	35,584	37,198※	104.5※	72,786
17	33,997	33,995	35,996※	105.9※	69,993
18	33,086	33,084	34,603※	104.6※	67,689
19	30,639	30,637	32,659※	106.6※	63,298
20	29,043	29,040	30,319※	104.4※	59,363
21	27,417	27,412	28,924※	105.5※	56,341
22	25,619	25,616	27,428※	107.1※	53,047
23	23,952	23,947	25,508※	106.5※	49,460
24	22,339	22,339	23,510※	105.2※	45,849
25	21,056	21,056	22,176※	105.3※	43,232
26	18,760	18,758	19,544※	104.2※	38,304
27	17,698	17,695	18,759※	106.0※	36,457
28	16,020	16,020	16,546※	103.3※	32,566

* 手帳更新年度

※ 精密検査受診者数が一般検査受診者数より多いのは、一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみ当所で実施した人数を含んでいるためである。

イ 平成 28 年度被爆者一般・精密検査実施状況

平成 28 年度の一般検査の受診者数は 16,020 人、精密検査の受診者は 16,546 人であった。詳細は以下のとおりである。

(7) 一般検査

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間の当施設及び延 389 回の出張健診会場での一般検査受診者延数は表 2 a・b のとおり、男性 7,378 人、女性 8,642 人、計 16,020 人で、前年度との比較では 1,678 人の減少(男性 695 人、女性 983 人)である。年齢構成は、男性、女性とも 70 歳代がピークとなっている。平均年齢±標準偏差は男性 77.9±5.7 歳、女性 78.5±6.2 歳、全体では 78.3±6.0 歳である。健診会場別に受診者をみると、施設は 6,204 人(38.7%)、出張健診会場は 9,816 人(61.3%)であり、前年度に比し、施設健診は 695 人の減少、出張健診は 983 人の減少である。

出張健診の区別の受診状況は表 2 c に示すように、受診率は安芸区が 17.0%と最も高く、ついで安佐北区 12.6%、佐伯区 12.0%であり、全体では 10.1%である。

表 2 原爆 一般検査

a 受診者数

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
69～79	4,653	63.1	5,187	60.0	9,840	61.4
80～89	2,569	34.8	3,040	35.2	5,609	35.0
90～102	156	2.1	415	4.8	571	3.6
計	7,378	100.0	8,642	100.0	16,020	100.0

b 健診会場別実施状況

(単位：日、人)

区 分	平成28年度(A)		平成27年度(B)		比較増減(A)－(B)	
	日数	受診者数	日数	受診者数	日数	受診者数
施設健診	291	6,204	291	6,899	0	△ 695
出張健診	389	9,816	367	10,799	22	△ 983
計	680	16,020	658	17,698	22	△ 1,678

c 出張健診区別実施状況

(単位：日、人、%)

区 分	平成28年度(A)				平成27年度(B)				比較増減(A)－(B)		
	日数	対象者数	受診者数	受診率	日数	対象者数	受診者数	受診率	日数	対象者数	受診者数
中 区	23	9,036	621	6.9	17	8,827	636	7.2	6	209	△ 15
南 区	57	13,746	1,145	8.3	57	14,675	1,333	9.1	0	△ 929	△ 188
西 区	57	18,003	1,390	7.7	50	18,978	1,501	7.9	7	△ 975	△ 111
東 区	49	10,636	1,072	10.1	47	11,346	1,220	10.8	2	△ 710	△ 148
安 芸 区	23	4,523	769	17.0	24	4,840	780	16.1	△ 1	△ 317	△ 11
安 佐 南 区	62	17,626	1,885	10.7	62	18,585	2,069	11.1	0	△ 959	△ 184
安 佐 北 区	63	13,179	1,665	12.6	63	13,912	1,873	13.5	0	△ 733	△ 208
佐 伯 区	55	10,568	1,269	12.0	47	11,159	1,387	12.4	8	△ 591	△ 118
計	389	97,317	9,816	10.1	367	102,322	10,799	10.6	22	△ 5,005	△ 983

(対象者数は、年間の延べ被爆者健診通知数)

d 要精検率

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数	
			%			%			%
69～79	4,653	4,653	100.00	5,187	5,187	100.00	9,840	9,840	100.00
80～89	2,569	2,569	100.00	3,040	3,040	100.00	5,609	5,609	100.00
90～102	156	156	100.00	415	415	100.00	571	571	100.00
計	7,378	7,378	100.00	8,642	8,642	100.00	16,020	16,020	100.00

(イ) 精密検査

平成28年度の精密検査受診者延数は表3 aのとおり、男性7,668人、女性8,878人、計16,546人であり、前年度に比し男性は983人の減少、女性は1,230人の減少、全体では2,213人減少している。年齢別には一般検査と同様に男性、女性とも70歳代にピークがある。

精密検査受診者に対して実施した主な査項目は表3 cに示すように、肝機能検査が最も多く、ついで、血糖検査、白血球分類、心電図検査、Free T4、CAVIの順である。

精密検査の結果、何らかの疾病を有し、これに対して治療の必要なものを要治療者とし、経過観察、追加検査及び食生活指導の必要なものを要経過観察者として、これらの精密検査受診者に対する比率をみたのが表3 d・eである。要治療者については、男性では高血圧、高コレステロール血症、糖尿病の順に多くみられ、女性では高血圧、高コレステロール血症、骨粗鬆症の順である。要経過観察者についてみると、男性では高血糖、肝機能障害、高コレステロール血症の順に多くみられ、女性では、高血糖、血尿、高コレステロール血症の順である。

表3 原爆 精密検査

a 受診者数

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
69～79	4,931	64.3	5,410	60.9	10,341	62.5
80～89	2,581	33.7	3,051	34.4	5,632	34.0
90～102	156	2.0	417	4.7	573	3.5
計	7,668	100.0	8,878	100.0	16,546	100.0

b 要精検者に対する精密検査受診率

(単位：人，%)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	要精検者数	精検受診者数		要精検者数	精検受診者数		要精検者数	精検受診者数	
			受診率			受診率			受診率
69～79	4,653	4,931	106.0	5,187	5,410	104.3	9,840	10,341	105.1
80～89	2,569	2,581	100.5	3,040	3,051	100.4	5,609	5,632	100.4
90～102	156	156	100.0	415	417	100.5	571	573	100.4
計	7,378	7,668	103.9	8,642	8,878	102.7	16,020	16,546	103.3

c 精密検査における主な検査項目と実施件数

(単位：件)

検査項目	実施数	検査項目	実施数
肝機能検査	16,531	M R I	421
血糖検査	16,039	C T	415
貧血検査	2,519	胃内視鏡検査	411
ブドウ糖負荷試験	541	大腸内視鏡検査	115
F r e e T 3	274	眼底検査	626
F r e e T 4	3,939	腹部超音波検査	334
抗甲状腺抗体	383	心臓超音波検査	280
免疫グロブリン	712	甲状腺超音波検査	262
白血球分類	16,024	頸動脈超音波検査	1,040
尿沈査	1,316	心電図	11,862
細胞診検査	6	スパイロメトリー検査	17
		C A V I	3,398

d 要治療者の疾病分類

(単位：人)

疾病区分	病 名	男 性		女 性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	そ の 他	4	0.05	9	0.10	13	0.08
悪 性 新 生 物	胃 癌	63	7.90	34	3.82	97	5.70
	肺 癌	24		22		46	
	多 発 性 骨 髄 腫	84		62		146	
	結 腸 ・ 直 腸 癌	23		15		38	
	乳 癌	0		55		55	
	前 立 腺 癌	299		0		299	
	膀 胱 癌	1		0		1	
	甲 状 腺 癌	34		124		158	
	食 道 癌	9		1		10	
	そ の 他	46		17		63	
良 性 新 生 物	そ の 他	1	0.01	5	0.06	6	0.04
内 分 泌 ・ 代 謝 疾 患	糖 尿 病	1,381	53.90	934	55.43	2,315	54.73
	甲 状 腺 腫	0		0		0	
	甲 状 腺 機 能 低 下 症	231		621		852	
	甲 状 腺 機 能 亢 進 症	14		56		70	
	高コレステロール血症	1,670		3,066		4,736	
	高 脂 血 症	30		17		47	
	痛 風	645		89		734	
	そ の 他	6		7		13	
血 液 疾 患	貧 血	109	1.59	221	2.63	330	2.15
	そ の 他	8		6		14	
精 神 障 害 ・ 神 経 感 覚 器 疾 患	パ ー キ ン ソ ン	53	4.15	67	4.42	120	4.29
	白 内 障	159		212		371	
	そ の 他	94		103		197	
循 環 器 疾 患	高 血 圧	3,618	70.81	4,079	60.96	7,697	65.49
	高 血 圧 性 心 疾 患	0		0		0	
	虚 血 性 心 疾 患	815		498		1,313	
	そ の 他 の 心 疾 患	718		646		1,364	
	脳 血 管 障 害	51		26		77	
	その他の循環器疾患	22		19		41	
呼 吸 器 疾 患	肺 炎	22	3.94	14	3.60	36	3.76
	慢 性 気 管 支 炎	4		5		9	
	喘 息	141		255		396	
	肺 気 腫	87		15		102	
	肺 線 維 症	1		1		2	
	そ の 他	36		21		57	
消 化 器 疾 患	胃 潰 瘍	5	3.98	6	3.47	11	3.71
	十 二 指 腸 潰 瘍	2		2		4	
	肝 機 能 障 害	217		201		418	
	そ の 他	70		91		161	
泌 尿 ・ 生 殖 器 疾 患	腎 炎	10	15.32	3	0.42	13	7.28
	腎 不 全	74		30		104	
	前 立 腺 肥 大 症	1,037		0		1,037	
	尿 路 感 染 症	0		0		0	
	そ の 他	9		3		12	
皮 膚 ・ 筋 骨 格 系 疾 患	リウマチ様関節炎	83	4.70	157	27.79	240	17.16
	骨 粗 鬆 症	202		2,157		2,359	
	そ の 他	62		88		150	
そ の 他	そ の 他	13	0.18	16	0.19	29	0.18
総被検者数		7,378		8,642		16,020	

e 要経過観察者の疾病分類

(単位：人)

疾病区分	病 名	男 性		女 性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	陳 旧 性 肺 結 核	0		0		0	
	そ の 他	15	0.20	18	0.21	33	0.21
新 生 物	多 発 性 骨 髄 腫	1		1		2	
	その他の悪性新生物	3		2		5	
	胃 ポ リ ー プ	4	0.45	7	0.54	11	0.50
	その他の良性新生物	25		37		62	
内 分 泌 ・ 代 謝 疾	耐 糖 能 低 下	95		74		169	
	甲 状 腺 腫	20		74		94	
	その他の内分泌疾患	3	20.17	9	22.63	12	21.50
	高コレステロール血症	799		1,516		2,315	
	高 脂 血 症	136		49		185	
	そ の 他 の 代 謝 疾 患	435		234		669	
血 液 疾 患	貧 血	134		324		458	
	そ の 他	0	1.82	2	3.77	2	2.87
精 神 障 害 ・ 神 経 感 覚 器 疾 患	精 神 障 害	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	神 経 感 覚 器 疾 患						
循 環 器 疾 患	高 血 圧	279		236		515	
	高血圧性心疾患	0		0		0	
	虚血性心疾患	10	13.05	13	8.98	23	10.86
	そ の 他 の 心 疾 患	207		158		365	
	脳 血 管 障 害	44		20		64	
	その他の循環器疾患	423		349		772	
呼 吸 器 疾 患	喘 息	0		0		0	
	肺 気 腫	11	0.39	0	0.08	11	0.22
	肺 線 維 症	5		1		6	
	そ の 他	13		6		19	
消 化 器 疾 患	胃 炎	104		72		176	
	肝 機 能 障 害	854	13.96	418	6.32	1,272	9.84
	そ の 他	72		56		128	
泌 尿 ・ 生 殖 器 疾	腎 炎	465		114		579	
	そ の 他	622	14.73	650	8.84	1,272	11.55
皮 膚 ・ 筋 骨 格 系 疾	皮 膚 疾 患	0		0		0	
	リウマチ様関節炎	0	4.12	0	4.40	0	4.27
	骨 粗 鬆 症	302		376		678	
	その他の骨関節疾患	2		4		6	
そ の 他	血 尿	621		1,711		2,332	
	蛋 白 尿	464		282		746	
	高 血 糖	2,450	49.12	1,927	45.80	4,377	47.33
	尿 糖	87		24		111	
	そ の 他	2		14		16	
総被検者数		7,378		8,642		16,020	

ウ 被爆者がん検診等の実施

被爆者がん検診(胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・多発性骨髄腫)は、被爆者の高齢化に伴う健康不安の増大等に対し、健康不安を解消するとともに健康管理の充実を図るため、昭和63年度から原子爆弾被爆者の医療等に関する法律(平成7年、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に移行)に基づく被爆者健康診断の一環として導入されたものである。これは希望による健康診断2回のうち1回をがん検診として受診できていることになっている。

平成2年度からは、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん検診を安佐南区、安佐北区及び安芸区を除く出張健診会場で実施し、平成4年度から安芸区、平成5年度から安佐南区、安佐北区の出張健診会場においても実施している。

また、平成4年度から大腸がん検診を実施し、平成7年度からは広島市の施策として骨粗鬆症検診を施設において実施し、平成18年度からは、乳がん検診に乳房X線検査(マンモグラフィ)が必須項目となった。

なお、平成28年7月からは、胃がん検診は胃部X線検査と胃内視鏡検査を選択できるようになった。

被爆者がん検診の推移は表4、被爆者がん検診等の年度別実施状況は表5のとおりである。

表4 被爆者がん検診の推移

検診会場 検診	施設検診	出張検診		
		中区・南区・西区・東区・佐伯区	安芸区	安佐南区 安佐北区
胃がん検診	昭和 63 年 8 月～	平成 2 年 4 月～	平成 4 年 4 月～	平成 5 年 4 月～
肺がん検診				
乳がん検診				
子宮がん検診				
多発性骨髄腫検診		昭和 63 年 8 月～		
大腸がん検診	平成 4 年 10 月～	平成 4 年 10 月～		
骨粗鬆症検診	平成 7 年 4 月～			

表 5 被爆者がん検診等年度別実施状況

(単位：件)

年 度	胃がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮がん 検 診	多発性骨髄 腫 検 診	大腸がん 検 診	骨粗鬆症 検 診
昭和 54	2,165						
55	4,388						
56	2,843						
57	4,979						
58	5,446						
59	5,079						
60	5,142						
61	5,024						
62	4,973	201					
63	5,255	6,442					
平成元	3,848	8,052					
2	6,415	10,579					
3	5,976	10,964				4,018	
4	6,702	12,107				19,535	
5	8,095	14,189				18,306	
6	7,754	15,999				16,812	
7	8,034	16,522	3,305	3,105	36,347	16,196	3,995
8	7,953	16,104	3,288	3,094	30,677	16,657	3,891
9	7,835	15,764	3,155	2,959	33,103	15,619	5,605
10	7,574	15,148	2,783	2,649	31,304	15,029	6,055
11	7,878	15,542	2,947	2,779	28,068	15,105	6,597
12	7,686	15,523	3,024	2,876	28,793	14,472	7,000
13	7,244	14,967	2,860	2,715	26,898	13,901	6,848
14	7,161	15,596	2,843	2,724	26,131	13,669	7,211
15	7,215	15,573	2,907	2,736	25,502	13,375	7,516
16	6,950	14,650	2,864	2,548	23,823	12,453	7,193
17	6,809	14,135	2,590	2,405	22,804	12,288	6,580
18	6,416	13,720	3,073	2,499	22,401	11,570	6,480
19	5,967	12,972	3,026	2,499	20,416	11,257	6,049
20	5,445	12,588	2,997	2,427	19,555	10,988	5,932
21	4,971	12,503	3,096	2,498	18,581	10,503	5,888
22	4,514	11,708	2,686	2,260	17,352	9,639	5,623
23	4,133	11,159	2,536	2,040	16,376	9,766	5,306
24	3,891	10,438	2,527	2,032	15,311	9,331	5,132
25	3,392	11,311	2,300	1,870	14,468	8,570	4,984
26	2,881	10,278	2,098	1,696	13,120	7,577	4,530
27	2,317	9,681	1,993	1,567	12,401	7,025	4,543
28	2,268※	8,730	1,779	1,360	11,253	6,345	3,855

※胃がん健診のうち胃内視鏡検査（7月開始）の実施数 445 件（内数）

昭和 62 年度までの胃がん検診、肺がん検診及び平成 3 年度の大腸がん検診は、広島市独自の法外援護事業として広島市の委託を受けて実施したものであり、昭和 63 年度以降（大腸がん検診は平成 4 年度以降）は国の制度として、広島県、広島市及び島根県、大阪府、山口県、東京都の委託を受けて実施したものである。

エ 平成 27 年度被爆者がん検診等実施状況（平成 29 年度 6 月末までの追跡調査の結果）

前回までは 1 年度前のがん検診実施状況を示していたが、検診結果の把握が十分行えずデータが不正確な可能性があるため、今回からは 2 年度前のがん検診状況を示した。昨年発表した平成 27 年度事業実績のデータは文中の（ ）に記載した。また昨年までの所見を消化器がん検診学会の統計などを参考に変更した。同様の変更を後述の健康増進法に基づくがん検診の報告にも行った。更に検診の精度管理の指標として陽性反応的中度も算出した。

(7) 胃がん検診

胃がん検診における受診者は表 6 a のとおり、男性 1,334(1,334)人、女性 983(983)人、計 2,317(2,317)人である。要精検率は男性 12.5(12.5)％、女性 10.0(10.0)％、計 11.4(11.4)％、精検実施率はそれぞれ 96.4％(95.2)％、94.9％(93.9)％、95.8％(94.7)％である。要精検率は女性に比し男性はやや高率であり、年齢別には、一定の傾向が見られなかった。

精検実施者における精検結果は表 6 b に示すように、有所見率は男性 14.47％(11.32)％、女性 9.77％(8.04)％、全体では 12.47％(9.93)％であり、男性が女性に比し高率である。主な所見の内訳を頻度の高い順に示す。胃ポリープ 1.25(1.25)％、胃潰瘍 0.60(0.56)％、胃癌 0.26(0.26)％、胃腺腫 0.13％(昨年は記載なし)である。

平成 27 年度新たに発見された胃がん症例は、表 6 c に示すとおりである。胃がん症例は男性 5(5)例、女性 1(1)例、計 6(6)例である。胃癌発見率は男性 0.37(0.37)％、女性 0.10(0.10)％、計 0.26(0.26)％で、推定発見率はそれぞれ 0.39(0.39)％、0.11(0.11)％、0.27(0.27)％で男性に高率である。

表 6 原爆 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

（単位：人）															
年齢 （歳）	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		%	1	%	2		%	1	%	2		%	1	%	2
68～69	100	13	13.0	13	100.0	74	7	9.5	6	85.7	174	20	11.5	19	95.0
70～79	940	115	12.2	111	96.5	696	74	10.6	72	97.3	1,636	189	11.6	183	96.8
80～89	291	39	13.4	37	94.9	208	16	7.7	14	87.5	499	55	11.0	51	92.7
90～102	3	0	0.0	0	0.0	5	1	20.0	1	100.0	8	1	12.5	1	100.0
計	1,334	167	12.5	161	96.4	983	98	10.0	93	94.9	2,317	265	11.4	254	95.8

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見										有所見例数	
		胃 癌		胃腺腫		胃ポリープ		胃潰瘍		その他		正常	
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
男性	68～69	0	0.00	0	0.00	2	2.00	1	1.00	14	14.00	1	17
	70～79	4	0.43	1	0.11	13	1.38	5	0.53	114	12.13	5	137
	80～89	1	0.34	1	0.34	2	0.69	2	0.69	33	11.34	2	39
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0
	計	5	0.37	2	0.15	17	1.27	8	0.60	161	12.07	8	193
女性	68～69	0	0.00	1	1.35	2	2.70	0	0.00	4	5.41	1	7
	70～79	1	0.14	0	0.00	8	1.15	5	0.72	62	8.91	9	76
	80～89	0	0.00	0	0.00	2	0.96	0	0.00	10	4.81	3	12
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	20.00	0	0.00	0	1
	計	1	0.10	1	0.10	12	1.22	6	0.61	76	7.73	13	96
計	68～69	0	0.00	1	0.57	4	2.30	1	0.57	18	10.34	2	24
	70～79	5	0.31	1	0.06	21	1.28	10	0.61	176	10.76	14	213
	80～89	1	0.20	1	0.20	4	0.80	2	0.40	43	8.62	5	51
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	12.50	0	0.00	0	1
	計	6	0.26	3	0.13	29	1.25	14	0.60	237	10.23	21	289

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た胃癌発見率

(単位:人)

性	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率 ³	推定発見率 ⁴
男性	2.0km以内直接被爆群	279	23	8.2	22	95.7	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	494	64	13.0	61	95.3	2	0.40	0.42
	入 市 ・ 他 群	561	80	14.3	78	97.5	3	0.53	0.55
	計	1,334	167	12.5	161	96.4	5	0.37	0.39
女性	2.0km以内直接被爆群	181	20	11.0	18	90.0	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	337	27	8.0	26	96.3	1	0.30	0.31
	入 市 ・ 他 群	465	51	11.0	49	96.1	0	0.00	0.00
	計	983	98	10.0	93	94.9	1	0.10	0.11
計	2.0km以内直接被爆群	460	43	9.3	40	93.0	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	831	91	11.0	87	95.6	3	0.36	0.38
	入 市 ・ 他 群	1,026	131	12.8	127	96.9	3	0.29	0.30
	計	2,317	265	11.4	254	95.8	6	0.26	0.27

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数(食道がんを含む)/受診者数×100

⁴ 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(イ) 肺がん検診

肺がん検診の受診者は表 7 a のとおり、男性 4,547(4,457)人、女性 5,134(5,134)人、計 9,681(9,681)人である。要精検率は男性 3.0(3.0)％、女性 2.0(2.0)％、計 2.5(2.5)％、精検実施率はそれぞれ 94.9(82.6)％、95.1(84.5)％、95.0(83.4)％である。

精検結果は表 7 b に示すように、有所見率は男性 2.40(2.40)％、女性 1.52(1.54)％、計 1.93(1.94)％で年齢別である。主な所見の内訳を頻度の高い順に示す。肺炎 0.17(0.14)％、肺線維症 0.13(0.12)％、非結核性抗酸菌感染症疑い 0.11％(昨年記載なし)、肺癌 0.10(0.13)％、縦隔腫瘍 0.02％(昨年記載なし)、活動性肺結核 0.0％(肺結核として 0.03％)である。

平成 27 年度新たに発見された肺癌症例と発見率は表 7 c に示すとおりである。肺癌症例は、男性 4(7)例、女性 6(6)例、計 10(13)例である。肺癌発見率は男性 0.09(0.15)％、女性 0.12(0.12)％、計 0.10(0.13)％で、推定発見率はそれぞれ 0.09(0.19)％、0.12(0.14)％、0.11(0.16)％である。被爆状況別の肺癌発見率には、一定の傾向は見られない。

表 7 原爆 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性				女 性				計			
	受診者数	要精検者数		精検実施者数	受診者数	要精検者数		精検実施者数	受診者数	要精検者数		精検実施者数
			% ¹				% ¹				% ¹	
68～69	263	2	0.8	2	256	4	1.6	4	519	6	1.2	6
70～79	2,844	81	2.8	77	3,010	47	1.6	44	5,854	128	2.2	121
80～89	1,385	51	3.7	48	1,722	43	2.5	41	3,107	94	3.0	89
90～102	55	4	7.3	4	146	9	6.2	9	201	13	6.5	13
計	4,547	138	3.0	131	5,134	103	2.0	98	9,681	241	2.5	229

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性		年齢 (歳)	精 検 所 見											有所見例数						
			肺 癌		縦隔腫瘍		活動性肺結核		非結核性抗酸菌症疑		肺 炎		肺線維症			その他		正常		
				% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹				% ¹		% ¹		% ¹
男性	68～69	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.76	0	2	0.76		
	70～79	2	0.07	1	0.04	0	0.00	1	0.04	5	0.18	6	0.21	58	2.04	4	73	2.57		
	80～89	1	0.07	1	0.07	0	0.00	2	0.14	4	0.29	4	0.29	35	2.53	1	47	3.39		
	90～102	1	1.82	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	5.45	0	4	7.27		
	計	4	0.09	2	0.04	0	0.00	3	0.07	9	0.20	10	0.22	98	2.16	5	126	2.77		
女性	68～69	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.39	0	0.00	0	0.00	3	1.17	0	4	1.56		
	70～79	3	0.10	0	0.00	0	0.00	5	0.17	3	0.10	2	0.07	23	0.76	8	36	1.20		
	80～89	1	0.06	0	0.00	0	0.00	1	0.06	4	0.23	1	0.06	24	1.39	10	31	1.80		
	90～102	2	1.37	0	0.00	0	0.00	1	0.68	0	0.00	0	0.00	6	4.11	0	9	6.16		
	計	6	0.12	0	0.00	0	0.00	8	0.16	7	0.14	3	0.06	56	1.09	18	80	1.56		
計	68～69	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.19	0	0.00	0	0.00	5	0.96	0	6	1.16		
	70～79	5	0.09	1	0.02	0	0.00	6	0.10	8	0.14	8	0.14	81	1.38	12	109	1.86		
	80～89	2	0.06	1	0.03	0	0.00	3	0.10	8	0.26	5	0.16	59	1.90	11	78	2.51		
	90～102	3	1.49	0	0.00	0	0.00	1	0.50	0	0.00	0	0.00	9	4.48	0	13	6.47		
	計	10	0.10	2	0.02	0	0.00	11	0.11	16	0.17	13	0.13	154	1.59	23	206	2.13		

¹ 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被爆状況別に見た肺癌発見率

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺 癌 症 例		
				% ¹		% ²	発見率 ³	推定発見率 ⁴	
男性	2.0km以内直接被爆群	1,004	26	2.6	24	92.3	2	0.20	0.22
	2.1km以上直接被爆群	1,716	50	2.9	46	92.0	1	0.06	0.06
	入 市 ・ 他 群	1,827	62	3.4	61	98.4	1	0.05	0.06
	計	4,547	138	3.0	131	94.9	4	0.09	0.09
女性	2.0km以内直接被爆群	1,108	24	2.2	23	95.8	3	0.27	0.28
	2.1km以上直接被爆群	1,783	35	2.0	33	94.3	2	0.11	0.12
	入 市 ・ 他 群	2,243	44	2.0	42	95.5	1	0.04	0.05
	計	5,134	103	2.0	98	95.1	6	0.12	0.12
計	2.0km以内直接被爆群	2,112	50	2.4	47	94.0	5	0.24	0.25
	2.1km以上直接被爆群	3,499	85	2.4	79	92.9	3	0.09	0.09
	入 市 ・ 他 群	4,070	106	2.6	103	97.2	2	0.05	0.05
	計	9,681	241	2.5	229	95.0	10	0.10	0.11

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100³ 発見率: 症例数/受診者数 × 100⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(ウ) 乳がん・子宮がん検診

乳がん検診の受診者数は表 8 a のとおりで 1,993(1.993)人、子宮がん検診は 1,567(1.567)人である。要精検率は、乳がん検診が 3.9(3.9) %、子宮がん検診が 0.1(0.1) % である。また精検実施率はそれぞれ 97.4(97.4) %、100.0(100.0) % である。

表 8 b にそれぞれの精検結果を示す。乳がん検診の有所見率は 2.21(2.26) % である。所見の内訳は乳癌が 0.90(0.85) % と最も多く、乳腺症 0.70(0.65) %、線維腺腫 0.20(0.20) % の順である。子宮がん検診の有所見率は 0.13(0.13) % である。

平成 27 年度に新たに発見された乳癌、子宮頸癌は、表 8 c に示すとおりである。乳癌症例は 18(17)例、子宮頸部癌は 0(0)例である。発見率は乳癌 0.90(0.85) %、子宮頸癌 0.00(0.00) %、推定発見率はそれぞれ 0.93(0.88) %、0.00(0.00) % である。

表 8 原爆 乳がん・子宮がん

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

	年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 が ん 検 診	年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²					% ¹		% ²	
乳 が ん 検 診	68～69	153	7	4.6	7	100.0	子 宮 が ん 検 診	68～69	134	1	0.7	1	100.0
	70～79	1,426	50	3.5	49	98.0		70～79	1,116	1	0.1	1	100.0
	80～89	396	20	5.1	19	95.0		80～89	304	0	0.0	0	0.0
	90～102	18	1	5.6	1	100.0		90～102	13	0	0.0	0	0.0
	計	1,993	78	3.9	76	97.4		計	1,567	2	0.1	2	100.0

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

乳がん検診	年齢 (歳)	精 検 所 見								有所見例数	
		乳 癌		線維腺腫		乳腺症		その他			
		% ¹	% ¹	% ¹	% ¹						
		68～69	1	0.65	0	0.00	0	0.00	1	0.65	5
70～79	13	0.91	1	0.07	11	0.77	6	0.42	18	31	2.17
80～89	3	0.76	3	0.76	3	0.76	2	0.51	8	11	2.78
90～102	1	5.56	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	5.56
計	18	0.90	4	0.20	14	0.70	9	0.45	31	45	2.26
子宮がん検診	年齢 (歳)	精 検 所 見								有所見例数	
		子宮頸癌		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他			
		% ¹	% ¹	% ¹	% ¹						
		68～69	0	0.00	0	0.00	1	0.75	0	0.00	0
70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.09	0	1	0.09
80～89	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
計	0	0.00	0	0.00	1	0.06	1	0.06	0	2	0.13

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

c 被爆状況別に見た乳癌・子宮癌発見率

(単位:人)

乳 が ん 検 診	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳 癌 症 例		
			% ¹		% ²		発見率 ³	推定発見率 ⁴	
乳 が ん 検 診	2.0km以内直接被爆群	428	17	4.0	15	88.2	1	0.23	0.26
	2.1km以上直接被爆群	713	27	3.8	27	100.0	11	1.54	1.54
	入 市・他 群	852	34	4.0	34	100.0	6	0.70	0.70
	計	1,993	78	3.9	76	97.4	18	0.90	0.93
子 宮 が ん 検 診	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 癌 症 例		
			% ¹		% ²		発見率 ³	推定発見率 ⁴	
子 宮 が ん 検 診	2.0km以内直接被爆群	334	0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	555	2	0.4	2	100.0	0	0.00	0.00
	入 市・他 群	678	0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.00
	計	1,567	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100³ 発見率: 症例数/受診者数×100⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(I) 多発性骨髄腫検診

多発性骨髄腫検診の受診者は 12,401 人であり、その内訳は男性 5,523 人、女性 6,878 人で、要精検率はそれぞれ 5.4%、4.2%で全体では 4.8%である(表 9 a)。また、精検実施率はそれぞれ 98.0%、98.3%、98.1%である。精検結果は表 9 b のとおりで、有所見率は男性 3.55%、女性 2.37%、計 2.89%である。その内訳で最も多くみられるのは前骨髄腫 1.15%で、ついで骨髄腫 0.82%、良性 M 蛋白血症 0.53%、マクログロブリン血症 0.39%の順である。

表9 原爆 多発性骨髄腫検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ⁰		% ⁰			% ¹		% ²	
68～69	297	15	5.1	13	86.7	330	9	2.7	9	100.0	627	24	3.8	22	91.7
70～79	3,332	147	4.4	144	98.0	3,921	116	3.0	113	97.4	7,253	263	3.6	257	97.7
80～89	1,805	131	7.3	130	99.2	2,362	141	6.0	140	99.3	4,167	272	6.5	270	99.3
90～102	89	8	9.0	8	100.0	265	23	8.7	22	95.7	354	31	8.8	30	96.8
計	5,523	301	5.4	295	98.0	6,878	289	4.2	284	98.3	12,401	590	4.8	579	98.1

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見									有所見者数	
		骨髄腫		前骨髄腫		マクログロブリン血症		良性M蛋白血症		M蛋白		% ¹
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		(-)		
男性	68～69	1	0.34	2	0.67	2	0.67	4	1.35	4	9	3.03
	70～79	29	0.87	38	1.14	14	0.42	13	0.39	50	94	2.82
	80～89	24	1.33	30	1.66	13	0.72	19	1.05	42	86	4.76
	90～102	2	2.25	2	2.25	2	2.25	1	1.12	1	7	7.87
	計	56	1.01	72	1.30	31	0.56	37	0.67	97	196	3.55
女性	68～69	1	0.30	0	0.00	2	0.61	1	0.30	5	4	1.21
	70～79	18	0.46	23	0.59	5	0.13	13	0.33	54	59	1.50
	80～89	23	0.97	42	1.78	10	0.42	12	0.51	53	87	3.68
	90～102	4	1.51	6	2.26	0	0.00	3	1.13	9	13	4.91
	計	46	0.67	71	1.03	17	0.25	29	0.42	121	163	2.37
計	68～69	2	0.32	2	0.32	4	0.64	5	0.80	9	13	2.07
	70～79	47	0.65	61	0.84	19	0.26	26	0.36	104	153	2.11
	80～89	47	1.13	72	1.73	23	0.55	31	0.74	95	173	4.15
	90～102	6	1.69	8	2.26	2	0.56	4	1.13	10	20	5.65
	計	102	0.82	143	1.15	48	0.39	66	0.53	218	359	2.89

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

判定不能 2名(男2名)

c 被爆状況別に見た多発性骨髄腫発見率

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		骨髄腫症例数		新規骨髄腫症例 ¹		
			% ²		% ³		% ⁴		発見率 ⁴	推定発見率 ⁵	
男性	2.0km以内直接被爆群	1,234	77	6.2	74	96.1	15	1.22	1	0.08	0.08
	2.1km以上直接被爆群	2,078	105	5.1	104	99.0	23	1.11	2	0.10	0.10
	入 市・他 群	2,211	119	5.4	117	98.3	18	0.81	0	0.00	0.00
	計	5,523	301	5.4	295	98.0	56	1.01	3	0.05	0.06
女性	2.0km以内直接被爆群	1,546	68	4.4	68	100.0	10	0.65	2	0.13	0.13
	2.1km以上直接被爆群	2,426	95	3.9	90	94.7	15	0.62	3	0.12	0.13
	入 市・他 群	2,906	126	4.3	126	100.0	21	0.72	3	0.10	0.10
	計	6,878	289	4.2	284	98.3	46	0.67	8	0.12	0.12
計	2.0km以内直接被爆群	2,780	145	5.2	142	97.9	25	0.90	3	0.11	0.11
	2.1km以上直接被爆群	4,504	200	4.4	194	97.0	38	0.84	5	0.11	0.11
	入 市・他 群	5,117	245	4.8	243	99.2	39	0.76	3	0.06	0.06
	計	12,401	590	4.8	579	98.1	102	0.82	11	0.09	0.09

¹ 今年度新たに発見された症例数³ 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100² 要精検率: 要精検者数/受診者×100⁵ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100⁴ 発見率: 症例数/受診者数×100

骨髄腫症例は男性 56 例(1.01%)、女性 46 例(0.67%)、計 102 例(0.82%)である。そのうち、今年度新たに発見された症例は、表 9 c に示すように、男性 3 例(0.05%)、女性 8 例(0.12%)、計 11 例(0.09%)で、推定発見率はそれぞれ 0.06%、0.12%、0.09%である。被爆状況別の多発性骨髄腫発見率には、一定の傾向は見られない。

(オ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者数の内訳は表 10 a に示すとおりである。男性 3,223(3,223)人、女性 3,802(3,802)人、計 7,025(7,025)人であり、要精検率はそれぞれ 7.4(7.4) %、7.9(7.9) %、7.7(7.7) % である。精検実施率は、男性 71.0(66.4) %、女性 62.9(58.9) %、全体で 66.5(62.2) % である。

精検結果は表 10 b に示す如く、最も多いのは腺腫 1.49(1.31) %、非腫瘍性ポリープ 1.02(0.87) %、大腸憩室 0.65 % (昨年記載なし)、大腸癌 0.27(0.27) % の順である。

平成 27 年度新たに発見された大腸癌症例は表 10 c のとおり男性 7(7)例、女性 12(12)例、計 19(19)例、発見率はそれぞれ 0.22(0.22) %、0.32(0.32) %、0.27(0.27) % であり、推定発見率は 0.31(0.33) %、0.50(0.54) %、0.41(0.43) % である。被爆状況別の大腸癌発見率には、一定の傾向が見られない。

表 10 原爆 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²	
68～69	179	11	6.1	9	81.8	190	10	5.3	8	80.0	369	21	5.7	17	81.0
70～79	1,900	117	6.2	87	74.4	2,129	132	6.2	100	75.8	4,029	249	6.2	187	75.1
80～89	1,099	107	9.7	72	67.3	1,329	138	10.4	77	55.8	2,428	245	10.1	149	60.8
90～102	45	3	6.7	1	33.3	154	22	14.3	5	22.7	199	25	12.6	6	24.0
計	3,223	238	7.4	169	71.0	3,802	302	7.9	190	62.9	7,025	540	7.7	359	66.5

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見												有所見例数	
		大 腸 が ん		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		潰瘍性大腸炎		大腸憩室		その他		正常	
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
男性	68～69	1	0.56	5	2.79	3	1.68	0	0.00	2	1.12	0	0.00	0	11
	70～79	3	0.16	25	1.32	22	1.16	1	0.05	15	0.79	16	0.84	14	82
	80～89	3	0.27	20	1.82	17	1.55	1	0.09	8	0.73	11	1.00	18	60
	90～102	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	2.22	0	1
	計	7	0.22	50	1.55	42	1.30	2	0.06	25	0.78	28	0.87	32	154
女性	68～69	0	0.00	3	1.58	2	1.05	0	0.00	1	0.53	0	0.00	2	6
	70～79	5	0.23	36	1.69	8	0.38	1	0.05	8	0.38	15	0.70	33	73
	80～89	7	0.53	15	1.13	19	1.43	1	0.08	11	0.83	15	1.13	17	68
	90～102	0	0.00	1	0.65	1	0.65	0	0.00	1	0.65	0	0.00	3	3
	計	12	0.32	55	1.45	30	0.79	2	0.05	21	0.55	30	0.79	55	150
計	68～69	1	0.27	8	2.17	5	1.36	0	0.00	3	0.81	0	0.00	2	17
	70～79	8	0.20	61	1.51	30	0.74	2	0.05	23	0.57	31	0.77	47	155
	80～89	10	0.41	35	1.44	36	1.48	2	0.08	19	0.78	26	1.07	35	128
	90～102	0	0.00	1	0.50	1	0.50	0	0.00	1	0.50	1	0.50	3	4
	計	19	0.27	105	1.49	72	1.02	4	0.06	46	0.65	58	0.83	87	304

¹ 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被爆状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大 腸 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率 ³	推定発見率 ⁴
男性	2.0km以内直接被爆群	680	44	6.5	28	63.6	2	0.29	0.46
	2.1km以上直接被爆群	1,166	98	8.4	74	75.5	1	0.09	0.11
	入 市・他 群	1,377	96	7.0	67	69.8	4	0.29	0.42
	計	3,223	238	7.4	169	71.0	7	0.22	0.31
女性	2.0km以内直接被爆群	842	63	7.5	33	52.4	1	0.12	0.23
	2.1km以上直接被爆群	1,284	104	8.1	67	64.4	7	0.55	0.85
	入 市・他 群	1,676	135	8.1	90	66.7	4	0.24	0.36
	計	3,802	302	7.9	190	62.9	12	0.32	0.50
計	2.0km以内直接被爆群	1,522	107	7.0	61	57.0	3	0.20	0.35
	2.1km以上直接被爆群	2,450	202	8.2	141	69.8	8	0.33	0.47
	入 市・他 群	3,053	231	7.6	157	68.0	8	0.26	0.39
	計	7,025	540	7.7	359	66.5	19	0.27	0.41

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(カ) 被爆者がん検診別に見た癌発見率と陽性反応的中度

被爆者の5大癌(胃・肺・大腸・乳・子宮)検診別に見た発見率・陽性反応的中度を表11に示す。子宮頸部癌発見率は0%であったが、胃癌・肺癌・大腸癌・乳癌の発見率は0.26(0.26)％、0.10(0.13)％、0.27(0.27)％、0.90(0.85)％、子宮がんを除く陽性反応的中度はそれぞれ2.26％、4.15％、3.52％、23.08％である。子宮がん以外のがん検診精度は良好と考える。

表11 原爆 がん検診別に見た癌発見率と陽性反応的中度

(単位:人)

性	検査種	受診者数	要精検者数		精検実施者数		癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率 ³	陽性反応の中度 ⁴
男性	胃がん	1,334	167	12.5	161	96.4	5	0.37	2.99
	肺がん	4,547	138	3.0	131	94.9	4	0.09	2.90
	大腸がん	3,223	238	7.4	169	71.0	7	0.22	2.94
女性	胃がん	983	98	10.0	93	94.9	1	0.10	1.02
	肺がん	5,134	103	2.0	98	95.1	6	0.12	5.83
	大腸がん	3,802	302	7.9	190	62.9	12	0.32	3.97
	乳がん	1,993	78	3.9	76	97.4	18	0.90	23.08
	子宮がん	1,567	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00
計	胃がん	2,317	265	11.4	254	95.8	6	0.26	2.26
	肺がん	9,681	241	2.5	229	95.0	10	0.10	4.15
	大腸がん	7,025	540	7.7	359	66.5	19	0.27	3.52
	乳がん	1,993	78	3.9	76	97.4	18	0.90	23.08
	子宮がん	1,567	2	0.1	2	100.0	0	0.00	0.00

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度: がん症例数/要精検者数×100

(キ) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、高齢化に伴う寝たきり被爆者が増加している現状に鑑み、その要因の一つである骨折を予防し、寝たきりを防止するために、広島市独自の施策として平成7年4月より実施されている。今年度の受診者の内訳は表 12 a に示すとおりで男性 2,236 人、女性 2,307 人、計 4,543 人である。

骨量の「減少あり」と判定された有所見率は男性 15.0%、女性 50.7%、計 33.1%である。女性は男性に比して高率であった。被爆状況別にみた結果を表 12 b に示すが、男女とも被爆状況別には一定の傾向は認められない。

表 12 原爆 骨粗鬆症検診

a 受診者数および結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	受診者数	測 定 結 果					
			減少なし	減少あり				計
				軽 度	中等度	高 度		
男性	68～69	137	104	15	4	2	21	15.3
	70～79	1,577	1,234	155	45	9	209	13.3
	80～89	506	361	60	27	13	100	19.8
	90～102	16	8	5	1	0	6	37.5
	計	2,236	1,707	235	77	24	336	15.0
女性	68～69	146	78	38	23	4	65	44.5
	70～79	1,605	746	442	273	93	808	50.3
	80～89	524	217	138	91	49	278	53.1
	90～102	32	11	8	5	6	19	59.4
	計	2,307	1,052	626	392	152	1,170	50.7
計	68～69	283	182	53	27	6	86	30.4
	70～79	3,182	1,980	597	318	102	1,017	32.0
	80～89	1,030	578	198	118	62	378	36.7
	90～102	48	19	13	6	6	25	52.1
	計	4,543	2,759	861	469	176	1,506	33.1

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

判定不能 278人(男193人, 女85人)

b 被爆状況別に見た骨密度測定結果

(単位:人)

性	被 爆 状 況	受診者数	測 定 結 果					
			減少なし	減少あり				計
				軽 度	中等度	高 度		
男性	2.0km以内直接被爆群	528	391	65	21	8	94	17.8
	2.1km以上直接被爆群	851	654	82	27	8	117	13.7
	入 市・他 群	857	662	88	29	8	125	14.6
	計	2,236	1,707	235	77	24	336	15.0
女性	2.0km以内直接被爆群	539	255	138	77	49	264	49.0
	2.1km以上直接被爆群	847	404	214	151	48	413	48.8
	入 市・他 群	921	393	274	164	55	493	53.5
	計	2,307	1,052	626	392	152	1,170	50.7
計	2.0km以内直接被爆群	1,067	646	203	98	57	358	33.6
	2.1km以上直接被爆群	1,698	1,058	296	178	56	530	31.2
	入 市・他 群	1,778	1,055	362	193	63	618	34.8
	計	4,543	2,759	861	469	176	1,506	33.1

¹ 所見率: 所見例数/受診者数×100

オ 原爆被爆者二世健康診断の実施

原爆被爆者二世の健康面での不安を除く等のために、昭和 48 年度から、広島市の事業として委託を受けて健康診断を開始し、昭和 54 年度からは、財団法人日本公衆衛生協会の事業（国が協会に委託している事業）、平成 13 年度からは国が広島県・広島市に委託している健康診断事業を実施し、平成 2 年度からは東京都の健康診断事業もあわせて委託を受けて行っている。

なお、平成 28 年度からは多発性骨髄腫検査も実施している。

健康診断は、被爆者の場合と同様に一般検査と精密検査になっている。

原爆被爆者二世健康診断の実施状況は表 13 のとおりである。

表 13 原爆被爆者二世健康診断実施状況

(単位：件，％)

年 度	一般検査	精密検査	精検実施率
昭和 48	578	580	100.3
49	109	110	100.9
50	82	83	101.2
51	51	51	100.0
52	131	129	98.5
53	124	126	101.6
54	1,942	1,768	91.0
55	1,041	626	60.1
56	854	494	57.8
57	995	572	57.5
58	1,152	663	57.6
59	1,551	853	55.0
60	1,798	1,072	59.6
61	1,967	1,155	58.7
62	2,250	1,314	58.4
63	2,780	1,551	55.8
平成元	2,417	1,161	48.0
2	2,078	1,127	54.2
3	2,132	1,219	57.2
4	2,309	1,520	65.8
5	2,508	1,610	64.2
6	2,297	1,698	73.9

年 度	一般検査	精密検査	精検実施率
7	2,391	1,936	81.0
8	2,475	2,138	86.4
9	2,867	2,309	80.5
10	2,786	2,796	100.4
11	3,201	3,202	100.0
12	3,711	3,711	100.0
13	3,762	3,762	100.0
14	2,919	2,919	100.0
15	3,150	3,150	100.0
16	2,483	2,483	100.0
17	2,678	2,678	100.0
18	2,497	2,497	100.0
19	2,477	2,477	100.0
20	2,428	2,428	100.0
21	2,565	2,565	100.0
22	2,486	2,486	100.0
23	2,344	2,344	100.0
24	2,525	2,525	100.0
25	2,432	2,432	100.0
26	2,489	2,489	100.0
27	2,452	2,452	100.0
28	2,487	2,487	100.0

カ 健康管理の推進

(7) 悪性新生物の早期発見

広島大学大学院医歯薬保健学研究院、同原爆放射線医科学研究所、(公財)放射線影響研究所等の協力を得て、胃がん・肺がん・肝臓がん・甲状腺がん・乳がん・子宮がん・白血病・多発性骨髄腫・大腸がん等の悪性新生物の早期発見に努めた。

(4) 生活習慣病の早期発見と指導

増加傾向にある糖尿病・動脈硬化症・高血圧等の生活習慣病の早期発見に努めるとともに、必要に応じて適切な保健指導及び栄養指導を行った。

キ 健康診断医療機器等の整備

- ・自動血球計算装置を更新した。

ク 被爆者健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料（カルテ、心電図所見等）を分類整理し保存するとともに、これら健康診断の実績、結果等について諸統計を作成し、調査研究資料として整備した。

ケ 黒い雨体験者相談・支援事業の補助

広島県・広島市が国からの受託事業として実施する黒い雨体験者に対する医師・臨床心理士・保健師による相談・支援事業について、医師等の派遣調整、相談会の日程調整及び会場の確保、会議録の作成、本人情報や相談記録等のデータベース化などの業務を実施した。

(2) 高齢者医療確保法・健康増進法等による健康診査

ア 高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等の実施

広島市総合健康センターへ移転した平成元年 9 月から、住民の健康管理を推進するため、広島市の委託を受け、高齢者医療確保法に基づく特定健康診査、健康増進法に基づくがん検診、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく健康診断等を実施している。その概要は表 1、検査項目は表 2、実施状況は表 3 のとおりである。

表 1 検診内容・検診区域の推移

検診会場 検診項目	施設検診	出張検診			
		中区・南区・西区・ 東区・佐伯区	安芸区	安佐南区	安佐北区
老健法基本健康診査	元. 9～ 20.3	2. 4～20.3		10. 4～20.3*	10. 4～20.3*◇
特定健康診査・健康診査	20.5～	20.5～		20.5～*	20.5～*
胃がん検診	元. 9～	2. 4～	4. 4～	5. 4～	
肺がん検診		8. 4～			
乳がん検診		2. 4～	4. 4～	5. 4～	
子宮がん検診					
大腸がん検診	4. 11～	4. 11～		10. 4～*	10. 4～*◇
結核健診	元. 9～	2. 4～			
骨粗鬆症検診	7. 10～				
マンモグラフィ検診	9. 4～17.3 [◎]				
C型・B型肝炎ウイルス検査	10. 10～	10. 10～		10. 10～*	10. 10～*◇

「元. 9～」は、平成元年 9 月から検診を開始したことを示す。

* 日曜検診のみ ◇ 白木町は平成 2 年 4 月から 13 年 3 月まで。

◎ 平成 17 年度からは、乳がん検診に乳房 X 線検査（マンモグラフィ）が必須項目となった。

表 2 健診種別及び検査項目（平成 28 年度）

種 別		対 象 者（広島市内在住者）	検 査 項 目
特定健康診査		40 歳以上 75 歳未満(被爆者含む) [年度内に 40 歳になる 39 歳の方は受診可]	必須検査： 身体計測・腹囲測定・血圧測定・脂質検査・肝機能検査・腎機能検査・血糖検査・尿検査・診察
健康診査	医療保険未加入者	上記年齢者の医療保険未加入者	選択検査： 貧血検査・心電図・眼底検査 (医師の判断により実施)
	後期高齢者医療被保険者	75 歳以上の方	身体計測・血圧測定・脂質検査・肝機能検査・腎機能検査・血糖検査・尿検査・診察
がん検診	胃がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する方	胃部 X 線撮影
	肺がん検診		胸部 X 線撮影、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する女性、2 年に 1 回	視診、触診、マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	20 歳以上の女性、2 年に 1 回	視診、内診、細胞診(頸部)
	大腸がん検診	年度内に 40 歳以上の年齢に達する方	便潜血二日法
結核健康診断		65 歳以上の方 [年度内に 65 歳になる 64 歳の方は受診可]	胸部 X 線撮影
骨粗鬆症検診		女性：20 歳から 5 歳間隔の年齢の方 男性：40 歳から 5 歳間隔の年齢の方	骨塩定量検査(超音波方式)
C 型・B 型肝炎ウイルス検査 (緊急肝炎ウイルス検査)		各種健診等により肝炎ウイルス検査を受けたことのない、又は、受ける予定のない 20 歳以上の方	HCV 抗体検査 HBs 抗原検査

表 3 実施状況

(単位：件)

年 度	基本健康診査		が ん 検 診					結核定期 健康診断	骨粗鬆症 検 診	マンモグラフィ 検 診	C型・B型肝炎 ウイルス検査
	必須検査	選択検査	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	大腸がん				
平成元	418	295	75	1	73	71	－	374	－	－	－
2	14,699	9,910	9,037	757	9,065	8,619	－	22,683	－	－	－
3	15,245	12,060	8,693	483	8,749	8,537	－	22,433	－	－	－
4	15,383	12,051	9,752	392	9,161	8,940	637	22,782	－	－	－
5	15,723	12,471	14,288	401	13,436	13,026	1,692	22,948	－	－	－
6	14,996	12,205	13,556	319	12,357	12,185	1,625	22,053	－	－	－
7	15,278	13,394	13,800	262	12,338	12,165	1,793	21,608	3,585	－	－
8	12,740	12,387	12,387	14,224	10,828	10,803	3,330	16,584	1,834	－	－
9	14,589	14,514	13,579	16,589	11,616	11,280	4,701	18,726	3,685	1,901	－
10	15,308	15,297	12,914	16,472	10,263	10,163	4,821	18,108	4,140	1,745	5,847
11	16,011	16,008	13,246	16,982	10,510	10,498	5,181	19,436	3,182	1,811	9,442
12	16,303	16,302	13,786	17,579	11,174	11,346	5,761	21,187	2,184	1,949	6,303
13	16,970	16,970	14,757	18,792	11,977	12,062	6,347	20,798	2,081	2,327	283
14	18,238	18,238	15,452	20,127	12,296	12,376	7,131	21,914	2,646	2,434	1,641
15	19,352	19,352	16,448	21,258	13,381	13,181	7,854	22,747	2,972	3,224	2,358
16	19,455	19,455	15,862	20,958	13,758	13,066	8,107	22,006	2,228	4,321	2,937
17	18,481	18,481	15,662	20,378	2,961	6,297	8,229	10,314	1,912		2,577
18	19,331	19,331	16,207	21,187	8,011	8,345	8,951	11,148	2,304		2,285
19	19,645	19,645	16,865	21,284	9,266	9,355	9,524	11,630	2,486		1,488
20	特定健康診査(注)		17,062	17,496	8,686	8,976	8,978	10,400	1,589		651
	12,685										
21	14,519		17,718	20,116	11,116	10,623	10,542	12,222	1,911		435
22	13,239		17,153	18,905	10,027	9,793	10,086	11,387	2,072		107
23	13,713		16,477	19,080	10,636	10,025	14,325	11,175	2,147		111
24	16,313		17,033	20,276	10,604	9,724	15,461	12,114	3,090		411
25	16,234		16,240	20,499	10,758	9,714	14,230	12,736	2,857		11,885
26	18,196		15,887	23,965	8,816	7,073	18,822	14,117	3,346		9,974
27	18,123		15,830	23,409	9,698	7,475	19,695	13,924	3,009		9,705
28	18,136		14,614	22,804	8,646	6,846	18,223	14,061	2,792		6,808

(注) 特定健康診査は、医療保険未加入者の健康診査・後期高齢者の健康診査を含む。

C型・B型肝炎ウイルス検査は、平成25年度から緊急肝炎ウイルス検査事業（無料）による件数である。

イ 平成28年度健康診査実施状況

平成28年度の特定健康診査の受診者数は、表4 aに示すように男性8,047人、女性10,089人、計18,136人であった。年齢別にみると、男女とも60歳代と70歳代が多かった。区別の受診者数では、西区が15.4%と最も多く、ついで南区が15.1%、佐伯区が14.4%、中区、東区が13%台であった(表4 b)。

表 4 特定健康診査

a 受診者数 (被爆者1,608人含む)

(単位：人)

年 齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
39～49	724	9.0	786	7.8	1,510	8.3
50～59	509	6.3	739	7.3	1,248	6.9
60～69	2,435	30.3	3,655	36.2	6,090	33.6
70～79	3,594	44.7	4,187	41.5	7,781	42.9
80～98	785	9.7	722	7.2	1,507	8.3
計	8,047	100.0	10,089	100.0	18,136	100.0

b 区別にみた受診者数

(単位：人)

区 分	男 性		女 性		計	
		%		%		%
中 区	987	12.3	1,483	14.7	2,470	13.6
南 区	1,151	14.3	1,583	15.7	2,734	15.1
西 区	1,253	15.6	1,547	15.3	2,800	15.4
東 区	1,082	13.4	1,332	13.2	2,414	13.3
安 芸 区	460	5.7	542	5.4	1,002	5.5
安佐南区	1,025	12.7	1,133	11.2	2,158	11.9
安佐北区	926	11.5	1,019	10.1	1,945	10.7
佐 伯 区	1,163	14.5	1,450	14.4	2,613	14.4
計	8,047	100.0	10,089	100.0	18,136	100.0

ウ 平成 27 年度がん検診等実施状況

(7) 胃がん検診

胃がん検診の受診者は表 5 a に示すとおり、男性 6,455 (6,455) 人、女性 9,375 (9,375) 人、計 15,830 (15,830) 人である。要精検率は男性 10.3 (10.3) %、女性 6.5 (6.5) %、計 8.0 (8.0) %、精検実施率はそれぞれ 90.7 (85.1) %、94.5 (89.6) %、92.5 (87.2) % である。要精検率は女性に比し男性はやや高率で、高齢になるほど高率となる。

精検結果は表 5 b の如く、有所見率は男性 9.95 (8.26) %、女性 6.13 (5.32) %、計 7.69 (6.52) % であり、男性が女性に比し高率である。

主な所見の内訳は、胃ポリープが 1.04 (0.91) % と最も多く、ついで胃潰瘍が 0.71 (0.59) %、胃癌は 0.29 (0.28) %、胃腺腫 0.07 % (昨年は記載なし)、非上皮性悪性腫瘍 0.03 % (昨年は記載なし)、食道がんなどの胃以外の悪性腫瘍 0.01 % (昨年は記載なし) である。

今年度新たに発見された胃がん症例は表 5 c に示すとおりである。胃がん症例(胃癌と胃非上皮性悪性腫瘍の合計)は、男性で 34 (31) 例、女性では 16 (14) 例、計 50 (45) 例である。胃がん発見率は男性 0.53 (0.48) % 女性 0.17 (0.15) %、計 0.32 (0.28) %、陽性反応的中度はそれぞれ 5.11 %、2.64 %、3.94 % である。厚生労働省の平成 26 年度地域保・健健康増進事業報告の全国集計の胃がん発見率 0.10 %、陽性反応的中度 1.28 % に比し胃がん発見率・陽性反応的中度ともに約 3 倍高率で、当センターの胃がん検診の精度は非常に良好と考える。

表 5 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位：人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²
39～49	970	61	6.3	49	80.3	2,358	92	3.9	87	94.6	3,328	153	4.6	136	88.9
50～59	549	42	7.7	36	85.7	1,465	57	3.9	51	89.5	2,014	99	4.9	87	87.9
60～69	2,512	280	11.1	256	91.4	3,387	246	7.3	233	94.7	5,899	526	8.9	489	93.0
70～79	2,060	234	11.4	218	93.2	1,910	181	9.5	175	96.7	3,970	415	10.5	393	94.7
80～97	364	48	13.2	44	91.7	255	29	11.4	26	89.7	619	77	12.4	70	90.9
計	6,455	665	10.3	603	90.7	9,375	605	6.5	572	94.5	15,830	1,270	8.0	1,175	92.5

¹ 要精検率：要精検者数/受診者数×100² 精検実施率：精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性		年齢 (歳)	精 検 所 見														有所見例数	
			胃 癌		胃非上皮性悪性腫瘍		胃以外の悪性腫瘍		胃腺腫		胃ポリープ		胃潰瘍		その他			
				% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		
男性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	0.31	4	0.41	39	4.02	7	46	4.74
	50～59	1	0.18	0	0.00	0	0.00	1	0.18	3	0.55	3	0.55	28	5.10	2	36	6.56
	60～69	17	0.68	2	0.08	0	0.00	0	0.00	23	0.92	43	1.71	192	7.64	17	277	11.03
	70～79	13	0.63	0	0.00	1	0.05	4	0.19	28	1.36	31	1.50	162	7.86	13	239	11.60
	80～97	1	0.27	0	0.00	1	0.27	0	0.00	6	1.65	4	1.10	32	8.79	4	44	12.09
	計	32	0.50	2	0.03	2	0.03	5	0.08	63	0.98	85	1.32	453	7.02	43	642	9.95
女性	39～49	2	0.08	0	0.00	0	0.00	0	0.00	18	0.76	3	0.13	53	2.25	20	76	3.22
	50～59	1	0.07	1	0.07	0	0.00	0	0.00	7	0.48	4	0.27	41	2.80	3	54	3.69
	60～69	4	0.12	1	0.03	0	0.00	3	0.09	34	1.00	11	0.32	188	5.55	14	241	7.12
	70～79	7	0.37	0	0.00	0	0.00	3	0.16	32	1.68	9	0.47	126	6.60	12	177	9.27
	80～97	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	3.92	0	0.00	17	6.67	3	27	10.59
	計	14	0.15	2	0.02	0	0.00	6	0.06	101	1.08	27	0.29	425	4.53	52	575	6.13
計	39～49	2	0.06	0	0.00	0	0.00	0	0.00	21	0.63	7	0.21	92	2.76	27	122	3.67
	50～59	2	0.10	1	0.05	0	0.00	1	0.05	10	0.50	7	0.35	69	3.43	5	90	4.47
	60～69	21	0.36	3	0.05	0	0.00	3	0.05	57	0.97	54	0.92	380	6.44	31	518	8.78
	70～79	20	0.50	0	0.00	1	0.03	7	0.18	60	1.51	40	1.01	288	7.25	25	416	10.48
	80～97	1	0.16	0	0.00	1	0.16	0	0.00	16	2.58	4	0.65	49	7.92	7	71	11.47
	計	46	0.29	4	0.03	2	0.01	11	0.07	164	1.04	112	0.71	878	5.55	95	1,217	7.69

¹ 有所見率:有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た胃癌発見率

(単位:人)

検診状況別にみた胃癌発見率									
性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率 ³	陽性反応の中度 ⁴
男性	施 設 検 診	4,247	401	9.4	369	92.0	20	0.47	4.99
	集 団 検 診	2,208	264	12.0	234	88.6	14	0.63	5.30
	計	6,455	665	10.3	603	90.7	34	0.53	5.11
女性	施 設 検 診	5,539	311	5.6	296	95.2	10	0.18	3.22
	集 団 検 診	3,836	294	7.7	276	93.9	6	0.16	2.04
	計	9,375	605	6.5	572	94.5	16	0.17	2.64
計	施 設 検 診	9,786	712	7.3	665	93.4	30	0.31	4.21
	集 団 検 診	6,044	558	9.2	510	91.4	20	0.33	3.58
	計	15,830	1,270	8.0	1,175	92.5	50	0.32	3.94
平成26年度全国		2,324,312	175,141	7.54		79.5	2,237	0.10	1.28

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数(食道がんを含む)/受診者数×100

⁴ 陽性反応の中度:癌症例数/要精検者数×100

(イ) 肺がん検診

肺がん検診の受診者数は表 6 a に示すように、男性 9,387(9,387)人、女性 14,022(14,022)人、計 23,409(23,409)人である。要精検率は男性 2.5(2.5) %、女性 1.2(1.2) %、計 1.7(1.7) %、精検実施率はそれぞれ 89.7(86.7) %、91.7(88.8) %、90.5(87.6) %である。

精検結果は表 6 b のとおりで、有所見率は男性 1.95(1.75) %、女性 0.92(0.82) %、計 1.33(1.19) %である。主な所見の内訳は、非結核性抗酸菌感染症疑い 0.11 % (昨年は記載なし)、肺線維症 0.11(0.07) %、肺炎 0.08(0.06) %、肺癌 0.08(0.07) %、縦隔腫瘍 0.02 % (昨年は記載なし)、活動性肺結核 0.00 % (昨年肺結核として 0.03 %) の順である。

今年度新たに発見された肺がん症例は表 6 c に示すとおりである。肺癌症例は、男性 11(9)例、女性 7(8)例、計 18(17)例である。肺がん発見率は男性 0.12(0.10) %、女性 0.05(0.06) %、計 0.08(0.07) %で、陽性反応の中度はそれぞれ 4.72 %、4.14 %、4.48 %である。厚生労働省の平成 26 年度地域保健・健康増進法事業報告の全国集計の肺がん発見率 0.04 %、陽性反応の中度 1.92 % に比し肺がん発見率・陽性反応の中度ともに約 2 倍高率で当センター肺がん検診の精度は非常に良好と考える。

表6 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数（単位：人）															
年齢 （歳）	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²	
39～49	1,186	10	0.8	9	90.0	2,873	13	0.5	13	100.0	4,059	23	0.6	22	95.7
50～59	681	7	1.0	6	85.7	1,849	18	1.0	17	94.4	2,530	25	1.0	23	92.0
60～69	3,455	80	2.3	71	88.8	5,073	71	1.4	64	90.1	8,528	151	1.8	135	89.4
70～79	3,261	104	3.2	96	92.3	3,596	46	1.3	42	91.3	6,857	150	2.2	138	92.0
80～97	804	32	4.0	27	84.4	631	21	3.3	19	90.5	1,435	53	3.7	46	86.8
計	9,387	233	2.5	209	89.7	14,022	169	1.2	155	91.7	23,409	402	1.7	364	90.5

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見														有所見例数	
		肺 癌		縦隔腫瘍		活動性肺結核		非結核性抗酸菌症		肺 炎		肺線維症		その他		正常	
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
男 性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	6	0.51	3	6
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.59	2	4
	60～69	3	0.09	2	0.06	0	0.00	1	0.03	3	0.09	5	0.14	46	1.33	18	60
	70～79	6	0.18	0	0.00	0	0.00	4	0.12	7	0.21	10	0.31	59	1.81	16	86
	80～97	2	0.25	0	0.00	1	0.12	0	0.00	1	0.12	5	0.62	18	2.24	1	27
	計	11	0.12	2	0.02	1	0.01	5	0.05	11	0.12	20	0.21	133	1.42	40	183
女 性	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.14	9	4
	50～59	2	0.11	0	0.00	0	0.00	3	0.16	0	0.00	0	0.00	7	0.38	5	12
	60～69	3	0.06	1	0.02	0	0.00	11	0.22	5	0.10	1	0.02	37	0.73	11	58
	70～79	1	0.03	1	0.03	0	0.00	4	0.11	3	0.08	2	0.06	28	0.78	8	39
	80～97	1	0.16	1	0.16	0	0.00	3	0.48	0	0.00	2	0.32	9	1.43	4	16
	計	7	0.05	3	0.02	0	0.00	21	0.15	8	0.06	5	0.04	85	0.61	37	129
計	39～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	0.25	12	10
	50～59	2	0.08	0	0.00	0	0.00	3	0.12	0	0.00	0	0.00	11	0.43	7	16
	60～69	6	0.07	3	0.04	0	0.00	12	0.14	8	0.09	6	0.07	83	0.97	29	118
	70～79	7	0.10	1	0.01	0	0.00	8	0.12	10	0.15	12	0.18	87	1.27	24	125
	80～97	3	0.21	1	0.07	1	0.07	3	0.21	1	0.07	7	0.49	27	1.88	5	43
	計	18	0.08	5	0.02	1	0.00	26	0.11	19	0.08	25	0.11	218	0.93	77	312

¹ 有所見率: 有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た肺癌発見率

(単位:人)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺 癌 症 例		
			% ¹		% ²		発見率 ³	陽性反応の中度 ⁴	
男 性	施 設 検 診	5,777	131	2.3	119	90.8	7	0.12	5.34
	集 団 検 診	3,610	102	2.8	90	88.2	4	0.11	3.92
	計	9,387	233	2.5	209	89.7	11	0.12	4.72
女 性	施 設 検 診	8,189	80	1.0	75	93.8	4	0.05	5.00
	集 団 検 診	5,833	89	1.5	80	89.9	3	0.05	3.37
	計	14,022	169	1.2	155	91.7	7	0.05	4.14
計	施 設 検 診	13,966	211	1.5	194	91.9	11	0.08	5.21
	集 団 検 診	9,443	191	2.0	170	89.0	7	0.07	3.66
	計	23,409	402	1.7	364	90.5	18	0.08	4.48
平成26年度全国		4,033,976	79,030	1.96		79.8	1,515	0.04	1.92

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100³ 発見率: 症例数/受診者数×100⁴ 陽性反応の中度: 症例数/要精検者数×100

(ウ) 乳がん検診

乳がん検診は、平成 17 年 4 月より、問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)を 40 歳以上の対象者に 2 年に 1 回行うこととなった。表 7 a に示すように、今年度の乳がん検診の受診者数は 9,698 (9,698) 人、要精検率 5.5 (5.5) %、精検実施率は 96.4 (94.2) % である。

精検結果を表 7 b に示す。乳がん検診全体での有所見率は 3.72 (3.65) %で、内訳は乳腺症 1.03 (1.03) %、線維腺腫 0.61 (0.61) %、乳癌 0.66 (0.59) %の順である。

表 7 c に示すごとく今年度新たに発見された乳癌は 64 (57) 例、乳がん発見率は 0.66 (0.59) %、陽性反応的中度は 12.05 %である。厚生労働省の平成 26 年度地域保健・健康増進法事業報告の全国集計の乳がん発見率 0.34 %、陽性反応的中度 4.05 %に比べて乳がん発見率で約 2 倍、陽性反応的中度で約 3 倍高率で当センターの乳がん検診精度は非常に良好と考える。

但し検診状況別の乳がん発見率をみると施設検診 0.89 (0.84) %、集団検診 0.31 (0.30) %で集団検診では低くなる。

表 7 乳がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数
(単位:人)

年齢 (歳)	乳がん検診				
	受診者数	要精検者数	% ¹	精検実施者数	% ²
39～49	2,800	205	7.3	197	96.1
50～59	1,656	99	6.0	95	96.0
60～69	3,132	147	4.7	143	97.3
70～79	1,882	72	3.8	69	95.8
80～97	228	8	3.5	8	100.0
計	9,698	531	5.5	512	96.4

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果
(単位:人)

精 検 所 見												有所見例数	
年齢 (歳)	乳 癌		線維腺腫		乳腺症		乳頭腫		その他		正常		
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			
39～49	10	0.36	29	1.04	45	1.61	0	0.00	62	2.21	51	146	5.21
50～59	12	0.72	15	0.91	17	1.03	0	0.00	23	1.39	28	67	4.05
60～69	22	0.70	11	0.35	26	0.83	1	0.03	35	1.12	48	95	3.03
70～79	17	0.90	3	0.16	11	0.58	0	0.00	18	0.96	21	49	2.60
80～97	3	1.32	1	0.44	1	0.44	0	0.00	2	0.88	1	7	3.07
計	64	0.66	59	0.61	100	1.03	1	0.01	140	1.44	149	364	3.75

¹ 有所見率: 有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た乳癌発見率
(単位:人)

検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳 癌 症 例			
		% ¹	% ²	% ³	% ⁴	発見率 ³	陽性反応的中度 ⁴		
施 設 検 診	5,874	350	6.0	338	96.6	52	0.89	14.86	
集 団 検 診	3,824	181	4.7	174	96.1	12	0.31	6.63	
計	9,698	531	5.5	512	96.4	64	0.66	12.05	
平成26年度全国	2,182,748	182,909	8.38	85.1	7,416	0.34	4.05		

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率: 症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応的中度: 癌症例数/要精検者数×100

(I) 子宮がん検診

子宮がん検診の対象者は20歳以上で、2年に1回受診することができる。表8 aに示すように、今年度の子宮がん検診の受診者は7,475(7,475)人で、要精検率は1.0(1.0)％、精検実施率は91.9(74.3)％である。

精検結果を表8 bに示す。有所見率は0.76(0.62)％で、中・高度異型上皮0.29(0.24)％、軽度異型上皮0.23(0.19)％、子宮頸癌0.08(0.09)％、子宮頸癌以外の悪性腫瘍0.03％(昨年は記載なし)の順である。

表8 cに示すごとく今年度新たに発見された子宮頸癌は6(7)例、子宮頸癌発見率0.08(0.09)％、陽性反応の中度は8.11％である。厚生労働省の平成26年度地域保健・健康増進法事業報告の子宮頸部癌発見率0.04％、陽性反応の中度1.86％に比べて子宮頸癌発見率で約2倍、陽性反応の中度で約4倍高率で当センターの子宮がん検診精度は非常に良好と考える。

検診状況別の子宮頸癌発見率は、施設検診0.07(0.07)％、集団検診0.09(0.12)％である。

表8 子宮がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数
(単位:人)

年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% ¹		% ²
20～29	175	8	4.6	7	87.5
30～39	486	14	2.9	13	92.9
40～49	1,618	30	1.9	26	86.7
50～59	1,077	7	0.6	7	100.0
60～69	2,459	9	0.4	9	100.0
70～79	1,494	6	0.4	6	100.0
80～97	166	0	0.0	0	0.0
計	7,475	74	1.0	68	91.9

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果
(単位:人)

年齢 (歳)	精 検 所 見											有所見例数	
	子宮頸癌		子宮頸癌以外の悪性腫瘍		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常		
		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹		% ¹			% ¹
20～29	0	0.00	0	0.00	6	3.43	1	0.57	0	0.00	0	7	4.00
30～39	0	0.00	0	0.00	3	0.62	5	1.03	2	0.41	3	10	2.06
40～49	2	0.12	1	0.06	8	0.49	7	0.43	5	0.31	4	23	1.42
50～59	0	0.00	0	0.00	3	0.28	1	0.09	0	0.00	3	4	0.37
60～69	2	0.08	0	0.00	1	0.04	3	0.12	1	0.04	3	7	0.28
70～79	2	0.13	1	0.07	1	0.07	0	0.00	2	0.13	0	6	0.40
80～97	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
計	6	0.08	2	0.03	22	0.29	17	0.23	10	0.13	13	57	0.76

¹ 有所見率:有所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た子宮癌発見率
(単位:人)

検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 癌 症 例		
			% ¹		% ²	発見率 ³	陽性反応の中度 ⁴	
施 設 検 診	4,267	49	1.1	45	91.8	3	0.07	6.12
集 団 検 診	3,208	25	0.8	23	92.0	3	0.09	12.00
計	7,475	74	1.0	68	91.9	6	0.08	8.11
平成26年度全国	4,199,634	96,175	2.29		72.4	1,785	0.04	1.86

¹ 要精検率:要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

³ 発見率:症例数/受診者数×100

⁴ 陽性反応の中度:癌症例数/要精検者数×100

(オ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 9 a に示すとおり、男性 7,718(7,718)人、女性 11,977(11,977)人、計 19,695(19,695)人である。要精検率は男性 13.5(13.5)％、女性 10.1(10.1)％、計 11.4(11.4)％、精検実施率はそれぞれ 83.0(68.7)％、83.3(71.9)％、83.1(70.4)％である。

精検結果は表 9 b に示す如く、有所見率は男性 9.21(7.53)％、女性 5.80(4.89)％、計 7.14(5.93)％である。所見に関して今回から大腸癌と大腸癌以外の悪性腫瘍を区別した。主な所見の内訳は、腺腫 2.68(2.33)％、非腫瘍性ポリープ 1.68(1.39)％、大腸憩室 1.08％(昨年は記載なし)、大腸癌 0.32(0.26)％、潰瘍性大腸炎 0.02％(昨年記載なし)、大腸がん以外の悪性腫瘍 0.01％(昨年記載なし)の順である。

表 9 c の示すごとく今年度新たに発見された大腸がん症例(大腸癌と大腸癌以外の大腸悪性腫瘍の合計)は男性 38(32)例、女性 27(20)例、計 65(52)例である。大腸がん発見率は男性 0.49(0.41)％、女性 0.23(0.17)％、計 0.33(0.26)％、陽性反応的中度はそれぞれ 3.64％、2.24％、2.89％である。平成 26 年度健康増進事業報告の全国集計の大腸がん発見率 0.19％、陽性反応的中度 2.85％に比し大腸がん発見率は約 1.7 倍高率で陽性反応的中度は同等で当センターの大腸がん検診精度は良好と考える。

表 9 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性					女 性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% ¹		% ²			% ¹		% ²			% ¹		% ²	
39～49	1,173	110	9.4	86	78.2	2,914	257	8.8	187	72.8	4,087	367	9.0	273	74.4
50～59	710	79	11.1	61	77.2	1,898	172	9.1	143	83.1	2,608	251	9.6	204	81.3
60～69	2,911	384	13.2	313	81.5	4,251	421	9.9	369	87.6	7,162	805	11.2	682	84.7
70～79	2,391	369	15.4	318	86.2	2,493	305	12.2	266	87.2	4,884	674	13.8	584	86.6
80～97	533	102	19.1	88	86.3	421	53	12.6	41	77.4	954	155	16.2	129	83.2
計	7,718	1,044	13.5	866	83.0	11,977	1,208	10.1	1,006	83.3	19,695	2,252	11.4	1,872	83.1

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

² 精検実施率: 精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性		精 検 所 見															有所見例数	
		大腸癌		大腸癌以外の悪性腫瘍		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		潰瘍性大腸炎		大腸憩室		その他		正常		
		年齢 (歳)	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹	% ¹			
男性	39～49	1	0.09	0	0.00	21	1.79	15	1.28	0	0.00	9	0.77	10	0.85	28	56	4.77
	50～59	1	0.14	0	0.00	19	2.68	11	1.55	1	0.14	4	0.56	5	0.70	15	41	5.77
	60～69	20	0.69	0	0.00	118	4.05	53	1.82	1	0.03	32	1.10	40	1.37	66	264	9.07
	70～79	13	0.54	0	0.00	102	4.27	72	3.01	0	0.00	46	1.92	37	1.55	62	270	11.29
	80～97	3	0.56	0	0.00	26	4.88	21	3.94	0	0.00	18	3.38	12	2.25	12	80	15.01
	計	38	0.49	0	0.00	286	3.71	172	2.23	2	0.03	109	1.41	104	1.35	183	711	9.21
女性	39～49	2	0.07	0	0.00	31	1.06	20	0.69	1	0.03	10	0.34	43	1.48	85	107	3.67
	50～59	4	0.21	0	0.00	28	1.48	22	1.16	0	0.00	12	0.63	23	1.21	54	89	4.69
	60～69	9	0.21	1	0.02	98	2.31	71	1.67	0	0.00	38	0.89	49	1.15	115	266	6.26
	70～79	10	0.40	0	0.00	75	3.01	43	1.72	0	0.00	38	1.52	43	1.72	77	209	8.38
	80～97	1	0.24	0	0.00	9	2.14	2	0.48	0	0.00	5	1.19	7	1.66	14	24	5.70
	計	26	0.22	1	0.01	241	2.01	158	1.32	1	0.01	103	0.86	165	1.38	345	695	5.80
計	39～49	3	0.07	0	0.00	52	1.27	35	0.86	1	0.02	19	0.46	53	1.30	113	163	3.99
	50～59	5	0.19	0	0.00	47	1.80	33	1.27	1	0.04	16	0.61	28	1.07	69	130	4.98
	60～69	29	0.40	1	0.01	216	3.02	124	1.73	1	0.01	70	0.98	89	1.24	181	530	7.40
	70～79	23	0.47	0	0.00	177	3.62	115	2.35	0	0.00	84	1.72	80	1.64	139	479	9.81
	80～97	4	0.42	0	0.00	35	3.67	23	2.41	0	0.00	23	2.41	19	1.99	26	104	10.90
	計	64	0.32	1	0.01	527	2.68	330	1.68	3	0.02	212	1.08	269	1.37	528	1,406	7.14

¹ 有所見率: 有所見例数/受診者数×100

○ 検診状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大 腸 癌 症 例		
				% ¹		% ²		発見率 ³	陽性反応的中度 ⁴
男 性	施 設 検 診	5,466	723	13.2	614	84.9	29	0.53	4.01
	集 団 検 診	2,252	321	14.3	252	78.5	9	0.40	2.80
	計	7,718	1,044	13.5	866	83.0	38	0.49	3.64
女 性	施 設 検 診	7,932	799	10.1	650	81.4	17	0.21	2.13
	集 団 検 診	4,045	409	10.1	356	87.0	10	0.25	2.44
	計	11,977	1,208	10.1	1,006	83.3	27	0.23	2.24
計	施 設 検 診	13,398	1,522	11.4	1,264	83.0	46	0.34	3.02
	集 団 検 診	6,297	730	11.6	608	83.3	19	0.30	2.60
	計	19,695	2,252	11.4	1,872	83.1	65	0.33	2.89
平成26年度全国		4,876,235	324,413	6.65		66.9	9,237	0.19	2.85

¹ 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

² 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

³ 発見率: 症例数/受診者数 × 100

⁴ 陽性反応的中度: 癌症例数/要精検者数 × 100

(カ) 悪性新生物症例

当センターではがん検診の一次検診だけでなく、消化管内視鏡・超音波・CT・MRI等の検査機器を使用しがん検診の精密検査医療機関としても機能している。従って人間ドック受診者や他施設のがん検診受診者の中で要精検となった方々の精密検査も行っている。また健診で自他覚症状より精密検査を行い発見しえた癌症例もある。それらの症例を表 10 当センターで発見した悪性新生物(がん検診の一次検診のみの受診者は除く)として示す。

表 10 当センターで発見した悪性新生物症例（がん検診の一次検診のみの受診者を除く）

No.	年齢	性別	病 名	No.	年齢	性別	病 名
1	71	M	肺 癌	43	58	F	結 腸 癌（ 早 期 ）
2	72	M	肺 癌	44	75	M	結 腸 癌（ 進 行 ）
3	76	M	肺 癌	45	66	M	直 腸 癌（ 早 期 ）
*4	77	M	肺 癌	46	60	F	直 腸 癌（ 早 期 ）
*5	77	M	肺 癌	47	70	F	直 腸 癌（ 早 期 ）
6	78	M	肺 癌	48	70	F	直 腸 癌（ 早 期 ）
7	79	M	肺 癌	49	75	F	直 腸 癌（ 早 期 ）
*8	80	M	肺 癌	50	78	F	直 腸 癌（ 早 期 ）
*9	90	M	肺 癌	51	60	M	大 腸 悪 性 腫 瘍
10	64	F	肺 癌	52	67	F	大 腸 平 滑 筋 肉 腫
11	67	F	肺 癌	*53	82	M	多 発 性 骨 髄 腫
*12	71	F	肺 癌	*54	83	M	多 発 性 骨 髄 腫
*13	73	F	肺 癌	*55	84	M	多 発 性 骨 髄 腫
*14	73	F	肺 癌	*56	69	F	多 発 性 骨 髄 腫
*15	83	F	肺 癌	*57	71	F	多 発 性 骨 髄 腫
*16	90	F	肺 癌	*58	75	F	多 発 性 骨 髄 腫
*17	96	F	肺 癌	*59	84	F	多 発 性 骨 髄 腫
*18	70	M	転 移 性 肺 癌	*60	87	F	多 発 性 骨 髄 腫
*19	77	M	転 移 性 肺 癌	*61	87	F	多 発 性 骨 髄 腫
*20	84	M	転 移 性 肺 癌	*62	89	F	多 発 性 骨 髄 腫
21	56	M	胃 癌（ 早 期 ）	*63	91	F	多 発 性 骨 髄 腫
22	63	M	胃 癌（ 早 期 ）	64	40	F	乳 癌
23	66	M	胃 癌（ 早 期 ）	65	41	F	乳 癌
24	66	M	胃 癌（ 早 期 ）	66	43	F	乳 癌
25	68	M	胃 癌（ 早 期 ）	67	43	F	乳 癌
26	69	M	胃 癌（ 早 期 ）	68	44	F	乳 癌
*27	70	M	胃 癌（ 早 期 ）	69	45	F	乳 癌
28	71	M	胃 癌（ 早 期 ）	70	48	F	乳 癌
*29	72	M	胃 癌（ 早 期 ）	71	49	F	乳 癌
*30	74	M	胃 癌（ 早 期 ）	72	50	F	乳 癌
*31	79	M	胃 癌（ 早 期 ）	73	51	F	乳 癌
32	45	F	胃 癌（ 早 期 ）	74	55	F	乳 癌
33	58	F	胃 癌（ 早 期 ）	75	55	F	乳 癌
34	65	F	胃 癌（ 早 期 ）	76	58	F	乳 癌
35	72	F	胃 癌（ 早 期 ）	77	58	F	乳 癌
36	65	M	胃 癌（ 進 行 ）	78	58	F	乳 癌
37	70	M	胃 癌（ 進 行 ）	79	61	F	乳 癌
*38	84	M	胃 癌（ 進 行 ）	80	62	F	乳 癌
39	68	F	胃 癌（ 進 行 ）	81	63	F	乳 癌
*40	71	F	胃 癌（ 早 期 ）	82	64	F	乳 癌
41	61	M	胃非上皮性悪性腫瘍	83	64	F	乳 癌
*42	72	F	食 道 癌（ 早 期 ）	84	65	F	乳 癌

* 付きの番号の症例は被爆者

No.	年齢	性別	病 名
85	65	F	乳 癌
86	65	F	乳 癌
87	67	F	乳 癌
88	68	F	乳 癌
89	68	F	乳 癌
90	68	F	乳 癌
91	68	F	乳 癌
92	68	F	乳 癌
93	68	F	乳 癌
94	69	F	乳 癌
95	70	F	乳 癌
96	70	F	乳 癌
97	70	F	乳 癌
98	70	F	乳 癌
99	70	F	乳 癌
100	70	F	乳 癌
*101	71	F	乳 癌
*102	71	F	乳 癌
103	71	F	乳 癌
*104	72	F	乳 癌
*105	73	F	乳 癌
*106	73	F	乳 癌
107	73	F	乳 癌
*108	74	F	乳 癌
109	74	F	乳 癌
*110	75	F	乳 癌
111	77	F	乳 癌
*112	78	F	乳 癌
*113	79	F	乳 癌
*114	80	F	乳 癌
115	80	F	乳 癌
*116	81	F	乳 癌
117	81	F	乳 癌
*118	90	F	乳 癌
119	75	M	肝 細 胞 癌
120	53	F	肝 門 部 胆 管 癌
121	73	F	膵 臓 癌
122	62	M	腎 臓 癌
123	57	M	甲 状 腺 癌
124	68	M	甲 状 腺 癌
125	66	F	甲 状 腺 癌
126	71	F	甲 状 腺 癌
*127	73	F	甲 状 腺 癌
*128	77	F	甲 状 腺 癌

* 付きの番号の症例は被爆者

(キ) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、寝たきりの主要な原因として骨折が大きな比重を占めている現状に鑑み、その最大原因としての骨粗鬆症を早期発見・早期予防するために、広島市の独自の施策として平成7年10月より開始された(平成16年4月からの検診対象者は、男性では40歳以上、女性では20歳以上の5歳刻み)。

受診者の内訳は表11に示すとおりで、男性970人、女性2,039人、計3,009人であり、女性が多い。骨量の「異常あり」と判定された有所見率は、男性68.0%、女性70.6%、全体で69.8%と高率である。

表11 骨粗鬆症検診

(単位：人)

性	年 齢 (歳)	受診者数	測 定 結 果				
			異常なし	要指導	要精検査	計	% ¹
男 性	40・45	89	34	24	31	55	61.8
	50・55	69	22	19	28	47	68.1
	60・65	284	97	78	109	187	65.8
	70・75	408	123	88	197	285	69.9
	80・85・90	120	34	24	62	86	71.7
	計	970	310	233	427	660	68.0
女 性	20・25	2	2	0	0	0	0.0
	30・35	12	7	2	3	5	41.7
	40・45	354	241	75	38	113	31.9
	50・55	334	167	76	91	167	50.0
	60・65	670	133	169	368	537	80.1
	70・75	556	49	111	396	507	91.2
	80・85・90	111	0	17	94	111	100.0
	計	2,039	599	450	990	1,440	70.6
計	20・25	2	2	0	0	0	0.0
	30・35	12	7	2	3	5	41.7
	40・45	443	275	99	69	168	37.9
	50・55	403	189	95	119	214	53.1
	60・65	954	230	247	477	724	75.9
	70・75	964	172	199	593	792	82.2
	80・85・90	231	34	41	156	197	85.3
	計	3,009	909	683	1,417	2,100	69.8

¹ 所見率：「要指導」「要精検査」例数/受診者数×100

(注) 平成27年度より、測定結果を「減少なし・軽度・中等度・高度」から変更

(7) 結核健康診断

結核健康診断は、平成元年9月から広島市の委託を受けて開始した。

受診者数は表12aのとおりで、男性6,510人、女性7,414人、計13,924人であり、年齢別には男性、女性とも70歳代が多い。区別の受診者数では、表12bに示すように、安佐北区が最も多く、ついで安佐南区、佐伯区、西区の順である。要精検率は表12cのとおり男性3.0%、女性1.4%、計2.2%である。

表12 結核健診

a 受診者数

(単位:人)

年齢 (歳)	男 性		女 性		計	
		%		%		%
64～69	2,443	37.5	3,185	43.0	5,628	40.4
70～79	3,263	50.1	3,597	48.5	6,860	49.3
80～97	804	12.4	632	8.5	1,436	10.3
計	6,510	100.0	7,414	100.0	13,924	100.0

b 区別にみた受診者数

(単位:人)

区 分	男 性		女 性		計	
		%		%		%
中 区	635	9.8	817	11.0	1,452	10.4
南 区	747	11.5	914	12.3	1,661	11.9
西 区	764	11.7	906	12.2	1,670	12.0
東 区	757	11.6	890	12.0	1,647	11.8
安 芸 区	591	9.1	597	8.1	1,188	8.5
安 佐 南 区	1,048	16.1	1,162	15.7	2,210	15.9
安 佐 北 区	1,120	17.2	1,185	16.0	2,305	16.6
佐 伯 区	848	13.0	943	12.7	1,791	12.9
計	6,510	100.0	7,414	100.0	13,924	100.0

c 要精検率

(単位:人)

年 齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数		受診者数	要精検者数	
			%			%			%
64～69	2,443	58	2.4	3,185	39	1.2	5,628	97	1.7
70～79	3,263	104	3.2	3,597	46	1.3	6,860	150	2.2
80～97	804	32	4.0	632	21	3.3	1,436	53	3.7
計	6,510	194	3.0	7,414	106	1.4	13,924	300	2.2

エ 健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料（カルテ・レントゲンフィルム・心電図等）を将来の活用にあわせて整理、保管した。

2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

(1) 調査研究の継続実施

継続して下記の調査研究を行い、その成果は原子爆弾後障害研究会、関係各学会等のほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙等に発表した。

- ・被爆者がん検診の意義に関する研究
- ・被曝と悪性腫瘍発生に関する研究
- ・被爆者の糖代謝に関する研究
- ・肺がんに関する研究
- ・加齢に関する研究
- ・睡眠の量及び質と各種疾患についての横断並びに横断調査

(2) 文献の収集

原爆関係図書「核の戦後史」を収集し、その活用を図った。

(3) 原子爆弾後障害研究会への協力

平成 28 年 6 月 5 日(日)、長崎原爆資料館で開催された「第 57 回原子爆弾後障害研究会」において、特別講演、シンポジウムのほか、一般演題 31 題が発表され、本会関係者は、一般演題 2 題を発表した。

◎ 一般演題

- | | |
|---------------------------------|----------|
| ・「原爆被爆約 70 年後発生乳癌について」 | 前田亮 ほか |
| ・「これからの被爆者検診:超高齢者検診の実情分析と新たな試み」 | 佐々木伸夫 ほか |

3 被爆者の援護福祉事業

(1) 被爆者相談

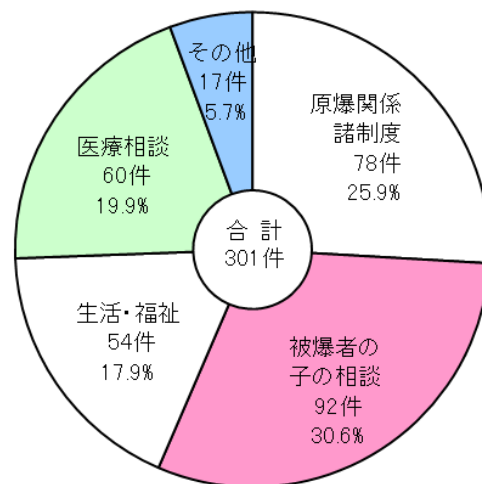
昭和 36 年、原爆被爆者福祉センター開設と同時に相談業務を開始したが、被爆者援護の積極的強化を図るため、昭和 42 年 7 月専任相談員を配置し、昭和 53 年 11 月には、来訪者の便宜を図って一階ロビーに相談コーナーを設置した。

開設以来の相談件数及び平成 28 年度の被爆者相談の状況は下表のとおりである。

開設以後の相談件数

年 度	件数 (件)	年 度	件数 (件)
昭和 36	51	平成元	4,530
37	29	2	4,074
38	19	3	4,183
39	30	4	3,525
40	46	5	3,451
41	68	6	3,482
42	240	7	3,512
43	334	8	3,576
44	465	9	3,393
45	626	10	3,758
46	910	11	2,911
47	626	12	3,414
48	507	13	2,817
49	568	14	2,572
50	871	15	2,522
51	1,241	16	2,455
52	1,746	17	2,084
53	2,566	18	576
54	3,174	19	625
55	2,319	20	566
56	3,676	21	601
57	3,057	22	503
58	2,852	23	414
59	2,660	24	394
60	3,283	25	371
61	3,086	26	323
62	3,454	27	337
63	5,333	28	301

平成 28 年度の被爆者相談の状況



※平成 18 年度から集計方法を変更し、電話による問い合わせ等簡易な相談については、相談件数に計上しないこととした。

(2) 被爆者の援護措置

本会の原爆被爆者援護規程に基づき、被爆者の生活及び健康上の相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、必要な指導及び援護の措置を講じている。

この財源は、全国から本会に寄せられる寄付金を基にして、次のとおり実施している。

- ア 被 爆 者 援 護 金：被爆者の生活の維持向上を図るため、生活困窮者に月額 10,000 円を支給する。
- イ 被 爆 身 障 者 等 見 舞 金：夏季と年末の年 2 回、被爆身体障害者福祉手当受給者、在宅高齢者福祉手当受給者、小頭症手当受給者、被爆者援護金受給者を対象に見舞金を贈って慰問する。
- ウ 福祉用具貸与・購入費補助：住民税非課税世帯の介護保険福祉用具利用者に補助金を支給する。
- エ そ の 他 の 補 助：以上のほか特に援護の必要を認められる者に、その都度経費の一部を補助する。

平成 28 年度の援護費支給状況は下表のとおりである。

平成 28 年度援護費の支給内容

種 別	人 員 (人)	支 給 額 (円)
被爆身体障害者等見舞金	15	135,000
福祉用具貸与・購入費補助	240	2,361,000
合 計	255	2,496,000

4 健康教育事業

健康に関する科学的知識の普及啓発を図るため、子供から高齢者までの各年齢層に応じた様々な健康問題について、最新で正確な情報を分かりやすく提供することにより、日常における健康管理について正しい知識の普及に努めた。

(1) 健康科学展示施設の運営

人間のからだの仕組み、病気と健康、歯の健康等について子供から大人まで興味を持って学習できる拡大模型・映像・グラフィックパネル等の展示を行った。

ア 年間利用者数 53,687 人

平成 28 年度健康科学館利用状況

(単位：人)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用 者 数	観覧者数	3,322	3,590	4,980	7,008	9,255	4,673	4,332	3,640	2,807	3,146	3,173	3,761	53,687
	大人 (人)	1,641	1,947	2,792	3,474	4,091	2,334	2,161	1,733	1,462	1,712	1,773	1,880	27,000
	小人 (人)	541	319	512	1,261	2,284	746	679	638	351	280	197	367	8,175
	幼児 (人)	1,140	1,324	1,676	2,273	2,880	1,593	1,492	1,269	994	1,154	1,203	1,514	18,512
	トータルヘルシアター (人)	247	168	531	463	287	300	189	202	152	112	199	213	3,063
	上映回数 (回)	102	88	123	101	55	89	99	94	87	88	93	104	1,123
	研修会議室 (人)	486	600	1,550	3,236	6,562	804	1,058	896	526	508	322	472	17,020
	視察・見学 (回)	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	主催事業 (回)	8	11	8	15	24	8	9	11	8	9	8	7	126
	共催事業 (回)	2	0	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	10
	ビデオ上映 (回)	1	3	16	4	0	10	11	11	1	3	0	1	61
	健康ライブラリー (人)	143	120	143	272	364	159	127	129	114	118	147	134	1,970
	つどいの広場 (人)	1,690	1,926	2,313	2,751	2,570	2,294	2,086	1,741	1,451	1,802	1,972	2,040	24,636
	大人 (人)	822	944	1,179	1,359	1,222	1,143	1,062	878	742	900	996	998	12,245
	幼児 (人)	868	982	1,134	1,392	1,348	1,151	1,024	863	709	902	976	1,042	12,391

イ 企画展の開催 年 4 回

平成 28 年度企画展の観覧者数

名 称	期 間	日 数	観覧者数 (人)			
			大人	小人	幼児	合計
楽しく脳活生活	平成28年3月12日～7月10日	※1 83	3,689	1,654	1,268	6,611
こわおもしろ あそびの館	平成28年7月23日～11月6日	87	6,310	4,726	3,202	14,238
いきいき現代養生訓	平成28年11月12日～平成29年3月12日	93	3,013	1,294	1,192	5,499
足で考える健康	平成29年3月18日～7月17日	※2 11	449	268	180	897
合 計		274	13,461	7,942	5,842	27,245

つどいの広場のみ及びライブラリーのみ入館者は除く。

※1 日数及び観覧者数は、平成28年4月1日から7月10日までの集計

※2 日数及び観覧者数は、平成29年3月18日から3月31日までの集計

ウ パネル展 年 12 回

(2) 健康ライブラリーの運営

健康に関する最新の健康情報を提供した。

(3) 健康に関する教育研修の実施

- ・主催による研修会・イベント 年 46 回 参加者 2,808 人
- ・他の関係機関との共催による研修会 年 15 回 参加者 804 人

(4) ボランティア（ヘルスサポーター）の育成・活動事業

・ボランティアの養成講座（6 課程）	年 1 回
・ボランティアの育成講座	年 7 回
・ボランティアの活動事業	年 453 回

(5) 広報活動（ＴＶ・ラジオ取材等）

開催数 87 回

(6) 展示物・資料等貸出

11 回

5 検査診療及び人間ドック健診等の収益事業

- (1) 被爆者や市民の健康診断の結果、悪性疾患等が疑われた場合には、確定診断や病期判定のために詳細な検査（ＣＴ・ＭＲＩ・内視鏡・超音波検査等）を行い、治療が必要な場合には、外部医療機関等との連携により最善の方策を進めた。

また、広島市医師会からの依頼による生体検査（ＣＴ・ＭＲＩ・内視鏡検査・Ｘ線撮影等）を行い、積極的に外部医療機関との協力を推進した。

- (2) 事業所・個人からの依頼による人間ドック健診、生活習慣病予防健診、事業所健診等の健診を実施した。健診結果に基づいて生活習慣の見直し等を指導し、病気の発症を未然に防ぐとともに、疾病を早期に発見し、早期治療ができるように健診活動を行った。

＜実施件数＞	人間ドック健診	1,915 件
	生活習慣病予防健診（協会けんぽ）	2,953 件
	事業所健診	3,278 件
	ストレスチェック	569 件

管理栄養士・健康運動指導士が受診者一人ひとりに適した運動・栄養について指導・助言を行い、市民の健康の維持・増進を図った。

＜実施件数＞	栄養サポート・運動サポート	293 件
	健康サポート	49 件

6 その他目的達成に必要な事業

(1) 子育て支援事業

ア ファミリー・サポート・センターの運営

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センター（地域において子育ての援助活動を行う者と援助を受けたい者からなる会員組織）を設置し、会員同士の子育てに関する支援機能の充実を図った。

(7) 会員の募集・登録など会員組織の管理運営

会員数 4,274 人（提供会員：570 人 依頼会員：3,609 人 両方会員：95 人）

【平成 29 年 3 月 31 日現在】

(4) 援助活動の調整

マッチング件数 1,364 件

(ウ) 提供会員登録講習会（援助活動に必要な知識の普及）

（年 1 回 11 月）

- (イ) 会員同士の交流会 3 回
- (オ) 会員講習会 10 回
- (カ) 機関誌の発行 1 回

イ つどいの広場の運営

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図った。

- (7) 常設のつどいの場の提供
- (イ) 子育てに関する相談援助
- (ウ) 子育て関連情報の提供
- (エ) 子育て等に関する講習会の開催 年 15 回
- (オ) 利用者数 24,636 人（大人 12,245 人 幼児 12,391 人）

ウ パパとママの育児教室の運営

夫婦が協力して子育てを行うために、育児における夫婦の役割や育児全般について講義・実習を行い、家庭における育児能力の向上を図った。

プレパパママ育児スクール 年 34 回、参加者 2,220 人

(2) 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

ア 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線被曝者医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝者治療に役立てようと平成 3 年 4 月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、医師等の受入（平成 28 年度は、5 回にわたり 25 名の医師等の医療研修）を積極的に行った。

イ 来日原爆被爆者の健康診断、医療相談等の実施

国外に居住する被爆者が来日の際、健康診断および医療相談等を実施するとともに、健康管理手当申請等の相談にも応じるなど、在外被爆者への援助を引き続き行った。

7 平成 28 年研究業績

(1) 学会発表

第 33 回広島県医学検査学会（2 月 20～21 日 尾道市）

- ・宮本淑子、柚園直美、佐々木伸夫、足免弘章、前田亮、藤原佐枝子：高齢者の睡眠習慣 特に睡眠時間の問題について

第 17 回広島 Gyro meeting（3 月 5 日、広島市）

- ・山田圭紀：腹部の Diffusion
- ・山田圭紀：いつか役に立つかも、非造影の下肢静脈の撮影

第 37 回広島県西部地区胃研究会（3 月 25 日、広島市）

- ・比川祐樹：病変のチェックトレーニング～基本的なところから～

第 56 回日本呼吸器学会学術講演会（4 月 8～10 日、京都市）

- ・Chihiro Hirano, Shinichiro Ohshimo, Yasushi Horimasu, Hiroshi Iwamoto, Kazunori Fujitaka, Hironobu Hamada, Noboru Hattori, Francesco Bonella, Josune Guzman, Ulrich

Costabel, Nobuoki Kohno : FAM13A Polymorphism as a Prognostic Factor in Idiopathic Pulmonary Fibrosis: 1st Study in the Japanese Population

第 5 回臨床高血圧フォーラム (5 月 14~15 日、東京)

- ・佐々木伸夫、小園亮次、山下英尚、藤原佐枝子、木原康樹：壮年期の睡眠習慣と高血圧の関連性について

American Thoracic Society International Conference 2016 (5 月 14~19 日、サンフランシスコ)

- ・Chihiro Hirano, Shinichiro Ohshimo, Yasushi Horimasu, Hiroshi Iwamoto, Kazunori Fujitaka, Hironobu Hamada, Noboru Hattori, Francesco Bonella, Josune Guzman, Ulrich Costabel, Nobuoki Kohno : FAM13A Polymorphism as a Prognostic Factor in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis

第 38 回広島県西部地区胃研究会 (5 月 20 日、広島市)

- ・品川祐樹：ローリングの復習、背臥位正面像の撮影や読影について

第 57 回原子爆弾後障害研究会 (6 月 5 日、長崎市)

- ・前田亮、門前裕子、石田啓、加藤博也、川西昌弘、佐々木伸夫、内藤久美子、吉良さくらこ、藤原佐枝子：原爆被爆約 70 年後に発生した乳がんについて
- ・佐々木伸夫、内藤久美子、足免弘章、宮本淑子、前田亮、門前裕子、張本和江、毛利周子、加藤博也、川西昌弘、吉良さくらこ、石田啓、藤原佐枝子：これからの被爆者検診:超高齢者検診の実情分析と新たな試み

第 58 回日本老年医学会学術集会 (6 月 8~10 日、金沢市)

- ・藤原佐枝子：シンポジウム 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015

日本放射線技術学会中国・四国支部第 17 回夏季学術大会 (7 月 3 日、広島市)

- ・品川祐樹：注腸 X 線検査 VS CTcolonography ,CT CTcolonography の立場から

第 41 回日本睡眠学会 (7 月 7~8 日、東京)

- ・佐々木伸夫、小園亮次、寺面和史、山下英尚、藤原佐枝子、木原康樹：睡眠時間および質と高血圧の関連性について：The Hiroshima Sleep and Healthcare Study

第 57 回日本人間ドック学会学術大会 (7 月 28~29 日、松本市)

- ・前田亮、門前裕子、石田啓、加藤博也、川西昌弘、佐々木伸夫、内藤久美子、吉良さくらこ、藤原佐枝子：当センターにおける乳癌検診成績からみたマンモグラフィ (MMG) 単独検診に関する考察

広島県 MRI 勉強会 基礎講座 34 (7 月 28 日、広島市)

- ・山田圭紀：MRI アーチファクトの光と影

European Society of Cardiology Congress 2016 (8 月 21~31 日、ローマ)

- ・Nobuo Sasaki, Ryoji Ozono, Kazushi Teramen, Hidehisa Yamashita, Saeko Fujiwara, Yasuki Kihara. Sleep quality but not sleep quantity is associated with the prevalence of hypertension in middle-aged men: The Hiroshima Sleep and Healthcare Study

第 39 回広島県西部地区胃研究会 (9 月 2 日、広島市)

- ・品川祐樹：空気量ゲップ我慢のコツ 検診の立場から

第 9 回消化管先進画像診断研究会 (9 月 11 日、名古屋市)

- ・品川祐樹：「大腸 CT の前処置の標準化に向けて！」PEG 高張法

第 32 回日本診療放射線技師学術大会 (9 月 16~18 日、岐阜市)

- ・面谷耕司：診療放射線技師からの原爆被爆者検診接遇向上への検討

第 39 回日本高血圧学会総会 (9 月 30 ~ 10 月 1 日、仙台市)

- ・佐々木伸夫、小園亮次、山下英尚、藤原佐枝子、木原康樹：睡眠習慣と肥満の関係：睡眠時間

と変動および睡眠の質についての検討

第 18 回日本骨粗鬆症学会（10 月 6～8 日、仙台市）

- ・藤原佐枝子、増成直美、高橋郁乃、大石和佳：高齢者男女における身長低下と骨折リスク 広島コホート研究

IOF Regional 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting（11 月 4～6 日、シンガポール）

- ・Fujiwara S, Miyauchi A, Hamaya E, Nicholls R, Wesron A, Baidya S, Tran G, Pinto L, Barron R, Takada J. Treatment Patterns in Patients with Osteoporosis at High Risk of Fracture in Japan: A Retrospective Chart Review.

第 40 回広島県西部地区胃研究会（11 月 25 日、広島市）

- ・品川祐樹：胃がん X 線検診の前壁撮影

第 47 回日本消化器がん検診学会中国四国地方会（12 月 10～11 日、岡山市）

- ・品川祐樹：CT-Colonography の腸管拡張、右下側臥位の有用性
- ・品川祐樹：胃 X 線検査撮影台の逆傾斜軽減—より安全な前壁撮影をめざして—

(2) 講演会等

骨代謝プライマリーケア研究会（9 月 8 日、小牧市）

- ・藤原佐枝子：骨粗鬆症診療の課題と動向 地域連携の必要性

健康科学館での講座の実施（10 月 22 日、広島市）

- ・芳上将：平衡感覚を鍛えよう！親子でバランス UP！！

(3) 原著論文

- ・Mitama Y, Fujiwara S, Yoneda M, Kira S, Kohno N Association of type 2 diabetes and an inflammatory marker with incident bone fracture among a Japanese cohort. *Journal of Diabetes Investigation*. 2017 DOI:10.1111/jdi.12632
- ・Tanaka S, Yamamoto T, Oda E, Nakamura M, Fujiwara S Real world evidence of raloxifene versus alendronate in preventing non-vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis: retrospective analysis of a hospital claims database. *J Bone Miner Metab*. 2016 Dec 27. doi: 10.1007/s00774-016-0809-0.
- ・Sasaki N, Ozono R, Yamashita H, Ashimen H, Miyamoto Y, Iwami S, Yuzono N, Fujiwara S, Kihara Y. Association of sleep habits with blood pressure in elderly people *Clin Experimental Hypertension* 2016 38:733-7
- ・Sasaki N, Fujiwara S, Yamashita H, Ozono R, Teramen K, Kihara Y. Impact of sleep on osteoporosis : sleep quality is associated with bone stiffness index. *Sleep Medicine* 2016 25:73-77
- ・Inoue N, Kawakami H, Yamamoto H, Ito C, Fujiwara S, Sasaki H, Kihara Y. Second derivative of the finger photoplethysmogram and cardiovascular mortality in middle-aged and elderly Japanese women. *Hypertension Research* 09/2016; DOI:10.1038/hr.2016.123

論文

- ・前田亮、門前裕子、石田啓、加藤博也、川西昌弘、佐々木伸夫、内藤久美子、吉良さくらこ、藤原佐枝子：原爆被爆約 70 年後に発生した乳がんについて 長崎医学会雑誌 91： 262-265 2016

- Nobuo Sasaki, Saeko Fujiwara, Hidehisa Yamashita, Ryoji Ozono, Kazushi Teramen, Yasuki Kihara. Impact of sleep on osteoporosis: sleep quality is associated with bone stiffness index. Sleep Med 25:73-77,2016.
- Nobuo Sasaki, Ryoji Ozono, Hidehisa Yamashita, Hirofumi Ashimen, Yoshiko Miyamoto, Sumi Iwami, Naomi Yuzono, Saeko Fujiwara, and Yasuki Kihara. Association of sleep habits with blood pressure in elderly people. Clin Exp Hypertens 38:733-737,2016
- 宮本淑子、柚園直美、佐々木伸夫、足免弘章、前田亮、藤原佐枝子：高齢者の睡眠習慣 特に睡眠時間の問題について 広島臨床検査 Vol.5 p36-41 2016

著書・ガイドライン

- 藤原佐枝子：「骨量が少ない」と言われたら 健診データで困ったら p140-145、伊藤澄信編 医学書院 東京 2017.
- 藤原佐枝子：ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン2014年改訂版 ステロイド性骨粗鬆症のマネジメント 改訂版 p20-30、医薬ジャーナル 東京 2016.
- 藤原佐枝子：椎体骨折 改訂6版 骨粗鬆症診療ガイドブック 中村利孝、松本俊夫編 p124-128、医薬ジャーナル 東京 2016.
- 藤原佐枝子：骨折リスク評価とFRAX 改訂6版 骨粗鬆症診療ガイドブック 中村利孝、松本俊夫編 p240-247、医薬ジャーナル 東京 2016.

総説

- 須藤啓広、藤原佐枝子、三浦雅一、新美塁：座談会 骨代謝マーカーの役割 診断・予防・治療をめぐる新たな展開 Clinical Calcium 27:113-120 2017
- 藤原佐枝子：One Point Advice 粗鬆症を見落とさないために Medical Practice 12:2002 2016
- 藤原佐枝子：超音波伝搬速度（SOS）、減衰係数（BUA）の臨床的意義や骨折予測は？ 日本医事新報 No.4829 11.12 2016.
- 藤原佐枝子：骨折リスク評価ツール FRAX 診断と治療 104:1263-66 2016.
- 藤原佐枝子：呼吸器疾患と骨粗鬆症 疫学 Clinical Calcium 26:9-14 2016.
- 藤原佐枝子：オステオカルシン（OC）と低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC） リウマチ科 55:591-595 2016
- 藤原佐枝子：骨粗鬆症の危険因子とFRAXの考え方 骨粗鬆症治療 15:16-19 2016.
- 藤原佐枝子：被爆者によりそう健康管理をめざして 広島医学 69:267-72 2016.
- 藤原佐枝子：注目の海外文献 Clinical Calcium 26:773-5 2016.
- 藤原佐枝子：骨粗鬆症における骨折危険因子とその評価 The BONE 30:17-21 2016.
- 藤原佐枝子：骨粗鬆症のリスク評価 medicina 53:440-3 2016.
- 藤原佐枝子：骨粗鬆症 第一章概念・定義と疫学 疫学 最新医学 別冊 診断と治療の ABC 19-24 2016.

Ⅶ 資 料

1 年度別被爆者数（広島市及び広島県）

広島市「原爆被爆者対策事業概要」より

（各年度末、単位：人）

年 度	広 島 市	広 島 県	合 計
昭和 32	74,610	32,342	106,952
33	79,400	36,531	115,931
34	82,476	38,611	121,087
35	82,831	43,713	126,544
36	87,752	48,716	136,468
37	92,796	51,153	143,949
38	93,608	51,014	144,622
39	93,393	53,113	146,506
40	92,911	57,204	150,115
41	95,627	64,768	160,395
42	94,975	71,574	166,549
43	92,921	75,987	168,908
44	91,389	77,442	168,831
45	90,336	81,233	171,569
46	92,090	80,881	172,971
47	108,764	66,812	175,576
48	108,690	66,624	175,314
49	114,411	62,874	177,285
50	114,542	65,219	179,761
51	113,384	66,253	179,637
52	112,738	66,699	179,437
53	111,811	67,228	179,039
54	110,717	67,799	178,516
55	109,612	68,356	177,968
56	108,870	68,211	177,081
57	108,208	68,208	176,416
58	107,093	67,550	174,643
59	113,885	59,322	173,207
60	112,871	58,856	171,727
61	111,433	58,121	169,554
62	110,392	57,580	167,972
63	109,118	57,046	166,164
平成元	107,459	56,250	163,709
2	105,599	55,579	161,178
3	103,818	54,889	158,707
4	101,939	53,958	155,897
5	100,188	52,851	153,039
6	98,473	51,844	150,317
7	96,929	50,766	147,695
8	95,260	49,630	144,890
9	93,637	48,577	142,214
10	91,940	47,173	139,113
11	90,184	45,451	135,635
12	88,592	44,367	132,959
13	86,779	43,246	130,025
14	85,065	41,995	127,060
15	83,732	40,739	124,471
16	81,649	39,427	121,076
17	80,509	37,381	117,890
18	78,111	35,987	114,098
19	75,642	34,561	110,203
20	73,388	33,027	106,415
21	71,194	31,619	102,813
22	68,886	30,498	99,384
23	66,660	28,926	95,586
24	64,302	27,388	91,690
25	61,666	25,954	87,620
26	58,933	24,434	83,367
27	56,174	22,818	78,992
28	53,340	21,286	74,626

2 年賀寄附金配分金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	配分金額
昭和 34 35	原爆被爆者福祉センター本館建設	55,844,000	52,300,000
38	健診車、原爆被爆者福祉センター暖房設備設置	27,379,000	16,850,000
41	原爆被爆者福祉センター増築	92,100,000	41,000,000
43	テレビレントゲン装置、オートアナライザー設置	30,490,000	20,000,000
45	原爆被爆者福祉センター増改築	56,548,000	25,000,000
47	ハイゼルマーク X、コールドターカウンター設置	59,000,000	29,000,000
49	コールドターカウンター搭載健診車(1号車)購入 パンスパイロコンピュータ設置	39,828,000	24,000,000
51	胃検診用 X 線テレビジョン装置 コールドターカウンター設置	43,900,000	23,000,000
53	X 線テレビジョン装置 胸部一般撮影用装置設備	37,600,000	23,000,000
55	自動血球分類装置(diff-3)	50,000,000	28,000,000
57	コールドターカウンター搭載健診車(2号車)購入	42,800,000	28,000,000
59	コールドターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入	42,920,000	30,000,000
61	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-501) 胃透視用 X 線テレビ装置設備	76,000,000	40,000,000
63	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-201) CR 専用 X 線透視撮影台設備 CR 用光ディスク画像ファイル装置設備	156,000,000	70,000,000
平成 2	超電導 MRI 装置設置	83,430,000	50,000,000
4	コールドターカウンター搭載健診車(2号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR7501(CR-501 更新)	78,000,000	46,000,000
6	コールドターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-201 更新) 光ディスク画像ファイル装置 集合型光ディスク画像ファイル装置	134,000,000	67,000,000
8	CR 用 X 線透視撮影装置 MRI 装置のバージョンアップ	92,000,000	36,000,000
10	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-7000 更新) 心電図データマネジメントシステム	73,500,000	25,725,000
12	MRI 装置(更新)	144,375,000	10,000,000
14	自動血球計算装置(更新)	21,315,000	7,460,000
16	全自動血球計算装置搭載健診車(2号車更新)	33,180,000	10,000,000
18	全自動血球計算装置搭載健診車(1号車更新)	27,615,000	2,060,000
20	超音波診断装置(更新)	12,915,000	4,916,000
22	全自動電気泳動装置(更新)	10,263,235	4,028,235
合 計		1,521,002,235	713,339,235

3 日本自転車振興会補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事・用地買収整備	46,885,000	29,150,000
42	原爆被爆者健康管理設備等の整備 健康診断用自動車整備・X線装置整備	5,565,000	2,550,000
43	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房設備工事・倉庫建設工事	15,401,000	5,430,000
平成元	原爆被爆者の診療機器の整備 CR専用X線透視撮影台 心電図自動解析ファイリング装置	74,469,000	37,234,500
3	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置・超音波診断装置	29,272,000	14,636,000
5	原爆症診療機器の整備 胃集検用X線デジタルラジオグラフィ装置	65,000,000	32,500,000
7	原爆症診療機器の整備 CR用X線透視撮影装置	36,000,000	14,420,000
9	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置	24,675,000	6,825,000
11	原爆症診療機器の整備 X線テレビ装置(DRシステム)	32,025,000	14,700,000
13	原爆症診療機器の整備 超音波診断装置配慮	16,695,000	8,242,000
合 計		345,987,000	165,687,500

4 車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 53	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室の増改築、消防設備・機械室の整備 厨房・静養室・外壁の補修工事	22,550,000	7,560,000
62	原爆被爆者有福温泉療養研究所 ロビー事務室改修工事、食堂拡張及び内装工事 アルミサッシ取替及び木製建具工事等	21,390,000	14,260,000
平成 4	原爆被爆者有福温泉療養研究所 客室内装工事、アルミサッシ取替工事 外壁塗装及びボイラー・貯水槽更新等	45,629,000	29,520,000
9	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事、リネン室防水工事	36,236,500	15,300,000
10	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事	20,454,000	10,220,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	7,920,000
合 計		162,114,500	84,780,000

5 広島県補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,906,964	800,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	800,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	800,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	800,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	800,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	800,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	800,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,300,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,500,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,500,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,500,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,500,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,500,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,500,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,500,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,500,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,500,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,500,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,500,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,500,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,500,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,500,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,500,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,500,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,500,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,366,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,146,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,123,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	694,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	951,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,148,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	1,033,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
	合 計	411,917,521	101,303,000

6 広島市補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,903,964	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事	46,885,000	9,727,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	1,000,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	1,000,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	1,000,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	1,000,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	1,000,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	1,000,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,500,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,700,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,700,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,700,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,700,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,700,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,700,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,700,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,700,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,700,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,700,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,700,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,700,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,700,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,700,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,700,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,700,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,700,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,530,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,530,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	1,329,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	1,300,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,300,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	715,520
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
合 計		458,799,521	119,673,520

7 日本高等学校教職員組合等からの寄付金

(単位：円)

年 度	日本高等学校教職員組合	個人・その他の団体	合 計
昭和 38	30,000	180,638	210,638
39	37,298	158,881	196,179
40	－	485,027	485,027
41	30,000	385,603	415,603
42	－	503,278	503,278
43	97,075	354,883	451,958
44	72,916	556,012	628,928
45	276,389	220,175	496,564
46	176,664	435,108	611,772
47	475,358	533,674	1,009,032
48	630,433	358,972	989,405
49	876,166	432,000	1,308,166
50	1,008,761	450,982	1,459,743
51	1,091,674	290,000	1,381,674
52	1,212,000	235,500	1,447,500
53	1,224,093	943,000	2,167,093
54	1,464,294	150,000	1,614,294
55	1,444,053	380,000	1,824,053
56	1,316,185	85,000	1,401,185
57	1,514,511	580,070	2,094,581
58	1,583,894	308,000	1,891,894
59	1,532,635	342,000	1,874,635
60	1,505,193	103,000	1,608,193
61	1,468,864	1,710,500	3,179,364
62	1,496,799	88,400	1,585,199
63	1,514,795	63,755	1,578,550
平成元	1,574,770	305,000	1,879,770
2	1,501,600	415,000	1,916,600
3	1,586,500	5,000	1,591,500
4	1,617,000	0	1,617,000
5	1,487,000	0	1,487,000
6	1,425,000	510,000	1,935,000
7	1,480,000	0	1,480,000
8	1,525,000	470,000	1,995,000
9	1,400,000	1,800,000	3,200,000
10	1,435,000	0	1,435,000
11	1,345,000	250,000	1,595,000
12	1,300,000	0	1,300,000
13	1,270,000	0	1,270,000
14	1,160,000	50,000	1,210,000
15	1,110,000	5,025,000	6,135,000
16	970,000	0	970,000
17	980,000	301,033	1,281,033
18	930,000	0	930,000
19	870,000	0	870,000
20	850,000	0	850,000
21	830,000	0	830,000
22	813,080	0	813,080
23	765,000	0	765,000
24	785,000	0	785,000
25	810,000	0	810,000
26	835,000	0	835,000
27	850,000	0	850,000
28	800,000	0	800,000
合計	54,385,000	19,465,491	73,850,491

8 全国から寄せられた寄付金

(資料7再掲、敬称略)

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
昭和 29	239,486 円	39 件	埼玉県比企郡自然科学研究所，中和孝三，若月一夫，広島ロータリークラブ，無名子，斉藤金三，東京都渋谷区議員団，サンエッチ外，中井一夫，中島茂，無名子，NHK 一般募金，大阪市立松宮小学校同窓会，清水達造，伊勢谷洋一，増川義信，広島美術人展，岸英一，毛利典攬，米子市口陰田婦人会並青年団，豊田郡大草村青年団○支部代表者吉田宣徳，日本国民健康会長和気清喬，吉本美枝子，中野正義，匿名，中国電波管理局組合支部長，石田ハル，一凡人，沢千代子，田川一男・順二，傷痍軍人会・長門労働組合連合会・長門連合青年会，原爆障害者救援会会員一同，一海上自衛隊員，匿名人，池田稔，宮原高等学校弁論部，セタヤ・ビカッシュ・バーナジエ，広島県博愛協議会中島茂，池田稔
30	419,804 円	38 件	池田稔，広島ライオンズクラブ会長寺田豊，湯浅傳，池田稔，養○豊子外 24 名，青山晴男，佐々木一，岩手小学校五年一組 34 名一同，アイラ・レ・モーリス，広島県博愛協議会中島茂，土岡博一，能代市職域文化団体連絡協議会笹村堅一郎，匿名，奥田洋子，法政大学県人会，京都子供カリタス会，一高校生，朝枝章，広島平和美術展事務局，大阪T生，匿名，銀座東宝社長，呉市宮原高校卒業生プラタナス会代表竹中三郎，原水爆禁止小金井準備会長鈴木誠一，海老名町青年団，斉藤嘉輔・明子，小倉市I子，藤岡女子高等学校生徒会，ブラジル・マルネイラセーマ町より，原田久，高知県安藝郡教員組合，原田東岷，ポートドーバーライオンズ倶楽部，セントピーターライオンズ倶楽部，原爆惨禍想起協議会長遠藤南史，美○ミシン工業株式会社，近藤ミシン株式会社，明治大学広島県人会
31	3,230,819 円	98 件	原爆惨禍想起協議会長遠藤南史，島田平和の集い準備会島田市市長，北海道農民同盟青年部，富山市奥田枝下婦人会，島田市クリスタルクラブ，森廉，下呂平和を護る会準備会，柳川小学校六年一組一同，無名，浜崎谷松，落合一男，藤村進，マレー ヤング，古谷良念，無名子，海上自衛隊○○隊十五分隊，安芸教区仏青連協議会長○重一教，渡辺弘子，大阪住友金属工業会社外十二社，東海田町青年団寺迫支部代表田原○男，医師会卒業生無名氏，横浜市新生活運動婦人○○会一同，福家俊明，野溝○人，ある少女，森数美，一女生，大阪東区一高校女学生，高橋信雄，徳原芳子，遠藤南史，小林蘊徹，梅林とし子，榎原彰夫，無名氏，八・一五終戦記念平和の夕世話人会代表堀口恒次，無名氏，○○○○○○○○○，山口県豊田町殿居地区婦人会長岡崎あつ子，服部保外十四名，全国連合竹和会，賀茂郡造賀村婦人会代表辻川静枝，中山教進・○○○・国定典明，神阪○子，国鉄幡生工場原爆罹災者救援会小西旭，山崎常雄外九名，中学一少女，東淀川平和の夕実行委員会，古谷良念，尾久母の会南支部・仲支部・東支部一同，兄妹三人無名子，茶谷京子，田中卓爾，広本露子，大谷高校二年生，高橋又一，鉄砲町一吉方一，元宇品小学校五年生一同，大阪市内某氏，菊池京子，一中中学校学級一同，大原乙彦，広島市原子力平和利用博覧会長渡辺忠雄，井口愛之助，大森植松，柳田孝，東京都共同募金会長藤山愛一郎，兵庫県共同募金会長岡崎忠，無名士盲人，茨木県取手第○○○学校生徒会長大久保証夫，北米加州パークレー広島県人会長大館誓一，大阪某氏，無名氏，○○孟範，遠藤南史，身体障害者厚明会長，中国訪日京劇団代表・朝日新聞社，井上敏子，秋本庸夫，山田千恵子，大歳盛明，太陽海運株式会社，長井あきよ，山田千恵子，三人の友達，成名小学校・鴨川中学校，維信高等学校二年D組ひらぎグループ，広島県司法書士会員総会出席者有志，全国司法職員労働組合広島支部，宮崎迫彦，安永隆夫，金沢薫台高等学校二年修学旅行団，羽咋高等学校生徒会，アーヴィンクンツ夫妻，高木俊子，羽田○良正，益村弥太郎，クロンドチーク
32	149,684 円	21 件	大森シゲ，山田○○○○，井木康秀，赤川正章，匿名氏，山田千恵子，斉藤明子，読売新聞社新聞○○委員会，取石小学校児童会，金清公夫，一青年，宮原太郎，下広井原青年団小川博○外十三名，匿名，栗栖勝，久留米市匿名，法政大学建築科一同，城東中学校生徒会，上田柳吉，吉坂中学校原田耕滋外十四名，フレデークイン
33	293,316 円	50 件	日本原水爆被災者救援会代表篠原つる子，増田呉省，Medizinische Klinik，朝山カツノ，江田島自衛隊○○○学校生徒，○○○高校三年図書部・○○○君子，匿名，ドイツ医学週間法出版社，東京田無町婦人連絡協議会，シチズン時計工場内文化部映画班，田口正治，大竹市小方中学生徒会，一無名士，清香仏教青年会，名田典子，岩国市立東小学校五年二組一同，橋詰博，三立製菓株式会社・鈴木自動車工業会・○○トマト会外三社，吉原信之，斉藤明子，漫画協団代表筑摩鉄平，中豊純子・實二，秋田県沖田○小学校五年生一同，京都市一中学生，第一製菓・三共○○・オリンパス光学・カミシマ製作社・小野田セメント・沖電気工業会社・三菱電気・東芝商事，高校生二名，梅津町青年団西江支部，横山妙，田口正治，○○無名氏，大洲病院一同，築地子供会，
年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名

34	575,892 円	32 件	東町連合子供クラブ一同、川崎市東芝〇附工、段原女子女学園中学一年六組一同外匿名三、野口あき、東京電気大学〇〇学校・浜田加代子・土肥邦雄・三村豊・タクシー運転手・松下和義・山田洋士・東京忍岡高校生・〇川〇〇、屋代小・中学校・戸倉中学校、匿名、広島県〇〇〇・吉本勝・浜田カヨ子、山田千恵子、高橋昭博、杉渕徳治、山田千恵子、河野次郎・県教職組合・乃美小学校 6 年〇組、〇尾富美子、浜田加代子、土肥邦雄、三村典子、松下和義
35	78,957 円	17 件	丸本杏男、山田千恵子、日本むつみ会、山田千恵子、奈良県一〇人、山田千恵子、吉岡隆夫、神戸市親和高校グループ、日本むつみ会老生、山田千恵子、金沢兼之助、東京福祉協会理事小祝昌弘、四人の女月光仮面、一読者、愛知トマト KK 他 7 社、日本むつみ会老生、(匿名)、大阪一女性、匿名者、田口正治、グレチエン・タットヒル、古賀和紀、グレチエン・タットヒル、金光教群馬県西部連合会、藤村弘、全日労組合広島地方会議組合員、篠村つる子、香川県千羽鶴運動実行委員会、イタリア生、(匿名)、浦辺和美外三名、徳竹道生外一名
36	1,935,402 円	30 件	広島予研支所匿名、広島予研支所匿名、アーサー・マリー・アイビンダー、赤松鉄也、赤松鉄也、匿名、篠村つる子、金子健次郎、大阪 K.E.氏、匿名、匿名、山田千恵子、山田千恵子、森新一、山田千恵子、原水爆禁止大川市協議会長古賀清治、広島県競輪選手会
37	140,129 円	19 件	紺野光吉、紺野光吉、日本原水爆被災者救援協会代表富井令子、石田久子、山田キク、関つる、山蔭貫之、関つる、紺野光吉、日本電装労働組合、ルイス・カヴレル、匿名、匿名 2 名、全大丸労働組合神戸支部、全国財務労働組合、紺野光吉、原田東岷、安佐郡長束地区婦人会会長原田静枝、寺本典夫、佐藤富子、土井憲策、山崎君子、愛知県立明和高等学校定時制夜間課程職員生徒一同、石川県立工業高等学校デザイン科有志、紺野光吉、原爆傷害調査委員会代表ジョージ・B・ダーリング、紺野光吉、柿原幸二、小崎芳子、紺野光吉
38	210,638 円	23 件	紺野光吉・無名氏、三次中学校、三次町本通一子供会、紺野光吉・匿名、山田千恵子、小川亀三、日〇一社員外三氏匿名、紺野光吉・m.y., 清水芳郎、駒込学園一同、呉造船労組宮原地区家族会、日本司法書士会連合会総会出席者、東大教育学部高校一年 A 組、板木節夫、藤田正行、河原卓一、安永茂雄、日下部春一、岩滝宗雄
39	196,179 円	18 件	神戸市育英高等学校一年十組、中村勝弥、奥田光太郎、空調タイムス社代表取締役杉本英太郎、大歳盛明、志村寛一、ノートルダム清心高等学校三年生一同、山田千恵子、山田千恵子、徳島県民主社会主義青年連合組織部長岡内淑夫、般若太郎外七口、岡本稔雄・吉田町役場職員組合、村上春雄、ロスアンゼルス・シカゴミヤコ観光団、日本高等学校教職員組合、中川シゲノ、山口親愛教会 S 氏、(匿名)、本間妙海、匿名、村上和輝、日赤東京都支部寄託、読売新聞社寄託
40	485,027 円	23 件	読売新聞社寄託 2 名、日赤東京都支部寄託、匿名、山田千恵子、中国新聞社会事業団寄託、政治経済研究会代表番匠朝昭、日本高等学校教職員組合代表磯本達則、中国新聞社会事業団寄託、土手和海外二名、原水爆禁止門〇市協議会会長東重太郎、金沢なでしこ会三人、金光教広島県連合会外二件、岐阜県立中津高等学校職員二学年一同、黒瀬町上黒瀬小学校五年生一同、福島県石川実務学園長外三ヶ所、朝日新聞山口支局寄託、石川県立金沢高等学校二四ホーム一同、大〇七一
41	415,603 円	18 件	神戸新聞厚生事業団寄託、石川県金沢高等学校修学旅行団、パリ大学医学部ウェーグマン教授夫妻、中川製袋化工 KK35 周年記念会招待者一同、〇生製作所労組、渋谷区代々木善明会教団、全国自動車産業労働組合連合会東海支部、山形県 16 歳学生、中島マチ、豊島区 S.K、こばやし、塚本利光、大豊〇樹、尾川昭外七ヶ所、比和中学校福田部落会生徒、キリンビール労働組合広島工場支部長〇〇永〇〇、松岡洋子・岡本・玉置せき、東京電気大学高校普通科二年生一同、日本大学豊山学園友輪会、豊橋市時〇〇高校二年一組一同、豊川地方労働組合、〇田照夫、石本タケノ
42	503,278 円	21 件	喫茶ガーネット、小池静子外二名、県内に住む一女性、三宅千代子、日本高等学校教職員組合中央執行委員長磯本達則、善明会教団東京支部、セント・ジェルジ博士、右田辰雄・原水爆禁止議員連盟外二名、東京電機工業高等学校定時制及全日制生徒〇〇〇キリスト〇〇、大阪市旅行クラブ「浪花会」、国際協力及軍備に関するオーストラリアニューージーランド委員会、吉田達雄、安田火災労働組合東京分会青年婦人部一同、土井憲作、南千田ヘルスセンター、山本雅子、矢沢一民、旧普通科神〇高等学校一年三組川上ナルエ、堤健一郎、徳原スミ子、飯田商店外二者、杉山博康、小松修、神戸外大二部原水禁実行委員会一同、片山茂樹、法眼〇外五件、三次市栗原町婦人会外二件、新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶円、読売新聞社寄託、金洞海、山形 KO 東京電機大学高校工業科二学年一同・定時制四年 C 組一同、奈良県青龍寺小西妙淳、全日本印刷工業組合連合会中国地区印刷工業組合協議会広島県印刷工業組合、フランス人シャンボイゼ、新田修三、関川守彦、下松市私立慈光園長・匿名梓蔭高校
年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
43	451,958 円	20 件	日本高等学校教職員組合、長崎原子爆弾被爆者対策協議会長諸谷義武、日本火薬福山工

44	628,928 円	23 件	場ダンス同好会一同, 本田英郎, 日本高等学校教職員組合, 大口あさを, 金井政吉, 姫路市匿名, 舟入本町商店街, 広島市の者, 藤井音次郎, 新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶圓, 沖一成, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合, 東海大学原子力教室, ビクターオート(株)広島営業所, 酒井幸四郎, 藤井音次郎, 藤井音次郎
45	496,564 円	27 件	香川県高等学校教職員組合執行委員長古川静夫, 藤井音次郎, 水木ナツ, 藤井音次郎, 小島静江, 金井政吉, 入田律子, 舟入本通会, 一老人, 田中茂, 新潟県十日町市原水爆禁止協議会, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一, 日本高等学校教職員組合執行委員長古川静夫, 桂雄一, 徳山市蟻の会代表水木敏郎, 鈴川寅二, ヒロスイ株式会社社員加賀愛万・下岡好一・西村浩, 鯉城クラブ, 藤井音次郎, 大園英彦, 藤井音次郎, 小野広秋
46	611,772 円	19 件	藤井音次郎, 友広和夫, 一匿名者, 一匿名者, 金井政吉, 匿名の一少女, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一, 藤井音次郎, 神戸市職青年部神戸市葦合区役所・神戸市生田区役所有志, 堀内登久子, 新潟県十日町市原水爆禁止協議会, 匿名者, 湧井雅晴, 小西清, 高田和典, 法政大学女子高校1年F組, 岩室久一, 横光利之, 苫小牧西高等学校新聞局, 明大附属中野中学校2年生, 藤井音次郎, 一市民, 狩野重治, 藤井音次郎, 岡野チヨノ, 八木千代, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一
47	1,009,032 円	20 件	藤井音次郎, 藤井音次郎, 金井政吉, 広島市無名氏, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 柴崎英治, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, 三重県立紀南高等学校修学旅行団一同, 藤井音次郎, 今田稔徳, 広島木工製材機械協会, 森崎律子, 藤井音次郎, 広島市匿名氏, 安佐ボール社長武智義則, 広島市無名氏, 藤井音次郎, 藤井音次郎
48	989,405 円	13 件	山口大学YMCA代表者山崎まり子, 藤井音次郎, 松川宣正, 松川宣正, 広島市Y子, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 下田工業株式会社広島支店長小野敏次, 広島市無名氏, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, 新谷五郎, 松坂次男, 藤井音次郎, 原田東岷, 飯田昭二, 藤井音次郎, エア・ポートレーン支配人登勝志, 広島市民無名氏, 福岡県立浮羽高等学校二年五組グループ代表野上美由貴, 岩手県釜石南高等学校社会研究部長佐藤三良, 藤井音次郎
49	1,308,166 円	11 件	広島木工製材機械協会長金子堅一, 藤井音次郎, 大高美代, 岡儀造, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 下田工業株式会社広島支店従業員代表支店長小野敏次, 原水爆禁止十日町市協議会書記長南雲藤平, 藤井音次郎他, 藤井音次郎, 岡正造, 藤井音次郎, 甚兵衛ボールガータスクラブ代表進藤芳樹, 藤井音次郎
50	1,459,743 円	11 件	渡辺ツルコ, 足門ミドリ, 日本高等学校教職員組合, 広島市内原爆被爆者, 原水爆禁止十日町市協議会, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長木山八郎, 奥野ワカヨ, 広島市原爆被爆者, 市山律子, 上山しのぶ
51	1,381,674 円	4 件	坂本悦治, 乙井ミツエ, 愛媛県立南宇和高校生徒会顧問武田裕典, 広島市民被爆無名者, 広島第一劇場代表取締役吉田尚行, 広島木工製材機械協会長金子堅一, 西部浩子, 日本高等学校教職員組合, 関が原石材労働組合中央執行委員長村瀬秀夫, 榎倉利明, 西部浩子
52	1,447,500 円	7 件	広島鉄道管理局広島工場桂哲雄, 河野和夫, 日本高等学校教職員組合, 長崎正明
53	2,167,093 円	9 件	大山ミチ子, 松上年雄, 広島木工製材機械協会, 東京の一学生, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長斉藤啓夫, 清水由紀子, 高橋彰温
54	1,614,294 円	2 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長中川金作, 浜井澄人, 山口能弘, 荒木邦男, 山田春三, 府中農協病院植田繁男, 川村法人
55	1,824,053 円	4 件	日本高等学校教職員組合, 東洋工業K.K.監査部主管榎倉誠
56	1,401,185 円	4 件	寺岡聖, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄, 森崎利樹, 藤井幸子
57	2,094,581 円	5 件	高野慶子, 山口大学平和キャラバン隊, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄, 巖利文
58	1,891,894 円	6 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長服部寛信, 山口大学ユネスコクラブ第12回平和キャラバン隊, 花田実男, 栃木県烏山女子高等学校三年一組一同, 大阪産業大学教職員有志によるチャリティーバザー実行委員会
59	1,874,635 円	9 件	大高美代, 京極春子, 山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン隊, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, ゼンセン同盟十日町職労佐藤敬, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫
60	1,608,193 円	12 件	全日本宗教用具組合連合会, 大高美代, 大熊開市, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫, 中野ツルエ, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市
年度	合計金額	件数	寄付者氏名

61	3,179,364 円	11 件	大熊開市, 大熊開市, 松坂次男, 大熊開市, 大高美代, 日本生命中央営業部藤本勇他職員, 一匿名者, 日本高等学校教職員組合, 酒井真司, 山村智寿子, 新中央工業株式会社代表取締役本部長中西忠彦
62	1,585,199 円	5 件	財団法人多山報恩会, 大高美代, さくらタクシー社長藤谷源市, 日本高等学校教職員組合, 匿名者
63	1,578,550 円	6 件	森田長昭, 匿名者, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 紀州アート株式会社, 匿名者藤原雄, 広島木工製材機械協会会長前田静正, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 柘植正
平成元	1,879,770 円	5 件	柘植好江, 石田ヒサ子, 藏本淳, 大高美代, 日本高等学校教職員組合
2	1,916,600 円	5 件	大高美代, 日本高等学校教職員組合
3	1,591,500 円	2 件	日本高等学校教職員組合
4	1,617,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
5	1,487,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合, 縁生の友の会, 中尾隆, 向井幸枝
6	1,935,000 円	4 件	日本高等学校教職員組合
7	1,480,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合, 津川弘道, 田中文枝, 松坂紘一郎, 茅原春夫, 前田千代子
8	1,995,000 円	6 件	日本高等学校教職員組合, 高原義明, 杉本純雄, 伊藤文明, 伊藤千賀子
9	3,200,000 円	5 件	日本高等学校教職員組合
10	1,435,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合, 原田義弘, 毛利佳代子
11	1,595,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合
12	1,300,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
13	1,270,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合, 藤岡マツエ, 山田ツユ子, 国会職員組合連合会
14	1,210,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 国原 浩, 国会職員組合連合会
15	6,135,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合
16	970,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合, 国会職員組合連合会, 第 27 回日本健康増進学会
17	1,281,033 円	3 件	日本高等学校教職員組合
18	930,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
19	870,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
20	850,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
21	830,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
22	813,080 円	1 件	日本高等学校教職員組合
23	765,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
24	785,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
25	810,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
26	835,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
27	850,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
28	800,000 円	1 件	

９ 核兵器廃絶・平和建設広島県民会議からの寄贈物品

(単位：円)

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
45	毛糸編機 6 台、ラジオ 1 台	292,000
46	カラーテレビ 1 台、長イス 11 脚	237,000
47	フィルム保管庫 5 台	125,000
49	フィルム格納庫 9 台	251,000
50	スロンブエラストグラフ 1 台、毛糸編機 4 台	1,750,000
52	顕微鏡 1 台、毛糸編機 3 台	442,000
53	胃カメラ 1 台	1,210,000
54	気管支ファイバースコープ 1 台	1,300,000
55	眼底カメラ 1 式	1,385,000
56	ガストロファイバースコープ 1 台	1,500,000
57	ガストロファイバースコープ 1 台	1,313,500
58	大腸ファイバースコープ 1 台	1,411,000
59	気管支ファイバースコープ 1 台	1,115,000
60	オートプロジェクター 1 台、内視鏡格納棚 1 台、吸引器 1 台	915,000
61	ガストロファイバースコープ 1 台	1,300,000
62	顕微鏡 2 台	1,009,000
63	超音波診断装置備品	1,044,000
平成元	顕微鏡 1 台	1,510,000
3	全自動身長体重計	708,000
5	体内脂肪計一式、吸引器、検眼鏡 1 組、パルスオキシメーター 1 台	958,106
6	体内脂肪計一式、インターバル・パワートレーニング・マシン	826,825
7	造影剤遠隔注排装置一式	1,000,000
8	血圧監視装置、視力表照明装置	994,980
9	酸化電位水生成機	875,000
10	ホルター自動連続血圧計、エルゴメーター、マイクロチューブ用遠心機	907,370
12	自動グルコース測定装置	1,500,000
14	上部消化管用スコープ	1,491,000
16	全自動グルコース測定装置	1,250,000
18	内視鏡洗浄器	1,249,500
20	超音波診断装置プローブ 1 台、ゼリーウォーマー 1 台	893,550
22	電子スパイロメータ	999,600
24	多機能心電計	997,500
26	ホルター自動連続血圧計 1 式、電動昇降台 2 式、3 クランクベッド プレグラースーパーマットレスベッドサイドレール 1 式	999,994
28	内視鏡洗浄消毒装置 3 台	1,499,040
合 計		35,259,965

※ ただし、平成 6 年度以降は、核兵器廃絶・平和建設広島県民会議が広島市に寄贈した物品のうち、同市から本協議会に貸与されたものである。

10 日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品

(単位：円)

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
平成 10	気管支ファイバースコープ 1 組、高周波焼灼電源装置 1 台	2,477,916
13	自動赤血球沈降速度測定機 1 台 赤沈管 100 本	1,839,915
15	下部消化管用細径スコープ 1 本、カラービデオプリンター 1 台	3,200,400
合 計		7,518,231

11 職員

(平成 29 年 7 月 1 日現在)

課・科・室名		職 名	氏 名
事務局		事務局長	永谷 尚之
		次長	影居 嗣久
		次長	大島 博美
	総務課	課長	面迫 敏朗
	経理課	(事)課長	影居 嗣久
	健康管理課	(事)課長	大島 博美
健康管理・ 増進センター		所長	藤原佐枝子
		副所長	前田 亮
		副部長	三好 保
		副部長	足免 弘章
	総合受付課	(事)課長	三好 保
	一般健診科	科長	後藤 久美子
		(事)課長	足免 弘章
	精密健診科	部長	佐々木伸夫
	がん検診科	部長	加藤 博也
	放射線科	部長	内藤久美子
		技師長	松島 文昭
	ドック健診科	科長	平野 千尋
		課長	宮本 淑子
	検査科	(事)技師長	足免 弘章
	看護科	看護師長	先田 浩美
健康科学館		館長	高尾ひとみ
	管理課	(事)課長	高尾ひとみ
	教育課	課長	田中 恵子

事業概要 平成 29 年（2017 年）版

公益財団法人 広島原爆障害対策協議会

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 8 番 6 号
広島市総合健康センター内

TEL 082-243-2451(代表)

FAX 082-241-0414

URL <http://www.gentaikyo.or.jp/>
